

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	保健医療統計特論	英文名	Health and Medical Statistics
担当者	高木 廣文		
時期・単位	1年次 前期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	保健医療分野における論文作成のための量的研究法の基礎を学び、研究に必要な統計学的推定・検定の方法、また多変量解析の基礎から応用まで、実践的に適用可能なように教授する。	
	到達目標	論文作成時に、必要な基礎的な統計学的方法から多変量解析の応用まで、実践的に研究に適用できるように、統計学について理解する。	
当該科目の内容・計画	第 1 回 看護研究におけるエビデンス 第 2 回 量的研究と質的研究 (1) 第 3 回 量的研究と質的研究 (2) 第 4 回 統計学の基礎 第 5 回 統計学的推測と検定 第 6 回 看護研究における標本数の定め方 第 7 回 カウンターファクチュアルモデルと因果推論 第 8 回 多変量解析の基礎 第 9 回 重回帰分析について 第 10 回 主成分分析について 第 11 回 因子分析について 第 12 回 尺度構成法について 第 13 回 看護研究における調査研究法 第 14 回 質問紙の作成法と質問紙調査法 第 15 回 実際の看護研究における問題点と留意事項		
評価方法	出席50%およびレポート等の提出状況50%により、総合的に評価する。		
参考書テキスト等	高木廣文, 林邦彦: エビデンスのための看護研究の読み方・進め方, 中山書店, 2006		
授業外学習の内容	自分の行いたい研究について、研究計画書を作成し、データ収集方法及び解析方法を考えまとめること		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	チーム医療特論	英文名	Team Medical Care
担当者	池田 優子、浅香 満、渡邊 秀臣、山上 徹也		
時期・単位	1年次 前期 必修1単位		
当該科目の目的	講義目的	施設から在宅、地域を貫くチーム医療の今日的課題と今後の在り方について検討し、患者・家族の健康問題を協働の力で解決しQOLの向上を目指すためのチーム医療を担う高度専門職の役割と概要について学ぶ。	
	到達目標	1. チーム医療の基本的考え方と今日的課題について理解できる。 2. チーム医療を担う高度専門職者の役割について理解できる。 3. チーム医療の連携の実際と概要について理解できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 回 チーム医療の基本的考え方及び求められる資質と今日的課題 (渡邊) 第 2 回 チーム医療をめぐる動向と医療専門職に期待される役割 (池田) 第 3 回 呼吸リハビリテーションチームの実践を通じたチーム医療の理解 (浅香) 第 4 回 地域リハビリテーションにおけるチームの実際 (浅香) 第 5 回 認知症ケアにおけるチームの実際 (山上) 第 6 回 地域医療とチーム医療 (山上) 第 7 回 看護に求められる調整能力 (池田) 第 8 回 チームマネジメント能力育成の課題と実際 (池田)		
評価方法	授業への参加度 (40%) レポート課題 (60%)		
参考書テキスト等	1. 細田満和子: 「チーム医療」の理念と現実—看護に生かす医療社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会 2. 井部俊子編: 患者は医療チームの一員という考えの実践、日本看護協会出版会		
授業外学習の内容	チーム医療に関する自己の課題について、レポートを提出する。参加型の対話形式の授業形態を取ることで積極的に参加すること。		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	チーム医療アプローチ特別演習	英文名	Seminar on team medical approach
担当者	田中 聡一、吉田 剛、棚橋 さつき		
時期・単位	1年次 後期 必修1単位		
当該科目の目的	講義目的	患者およびその家族の健康問題を解決、QOLの向上を目指すために、多職種によるチームアプローチが必要となる事例を検討し、チームアプローチ医療の理解を深める。看護師、医師、リハビリテーション専門職、栄養士、薬剤師、介護福祉士、ソーシャルワーカーなど各専門職に求められる機能を検討し、チームアプローチを推進するための、それぞれの働きや得意分野、守備範囲を学習した上で、機能的・効率的医療提供に結びつくコーディネート法を理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 具体的事例に対して自分が中心となって討論ができ、チームアプローチ医療に対するチームの考えを発表できる。 2. チームアプローチによる医療の重要性、問題点に対して、事例を提示して、プレゼンターとなって討論し、チームアプローチ医療に対する具体的な解答を発表できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 チームアプローチ演習オリエンテーション (田中) 第 2 回 チーム医療に関わるもの (田中) 第 3 回 演習 (1) 急性期医療 (田中) 第 4 回 演習 (2) 回復期医療 (田中) 第 5 回 演習 (3) 地域医療 (田中) 第 6 回 発表会準備 (田中) 第 7 回 発表会 (1) (田中) 第 8 回 演習 (1) 医療機関のチーム医療 (吉田) 第 9 回 演習 (2) 地域リハビリテーション (吉田) 第 10 回 発表会準備 (吉田) 第 11 回 発表会 (2) (吉田) 第 12 回 演習 (1) 医療機関のチーム医療 (棚橋) 第 13 回 演習 (2) 地域看護 (棚橋) 第 14 回 発表会準備 (棚橋) 第 15 回 発表会 (3) (棚橋)		
評価方法	発表会の成果 (40%) 授業参加度・貢献度 (60%)		
参考書テキスト等	チーム医療推進のための看護業務検討ワーキンググループ資料 チームで行う退院支援 入院時から在宅までの医療・ケア連携ガイド (中央法規出版)		
授業外学習の内容	現在話題となっているチームアプローチ医療に関する情報収集を常にしておき、授業で説明できるようにする。		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	地域支援学特論	英文名	Advanced Community Support&Care
担当者	棚橋 さつき、浅香 滄、倉林 しのぶ、大澤 幸枝		
時期・単位	1年次 前期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	在院日数の短縮による病院から在宅・地域への医療の移行や少子高齢化社会における家族の多様化が、健康問題を抱える個人を含む家族や地域にもたらす様々な問題について検討し、個人・家族・地域を繋いだ包括的なサポートについて学ぶ。独居老人の生活、老一老介護の問題、介護負担、虐待などの社会問題には家族の抱える問題が潜んでいることを学び、地域における療養者、家族の生活を支える看護支援やリハビリテーション、地域支援のあり方を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションを中心とした地域支援の在り方を理解できる。 2. 倫理的側面から家族関係、広くは地域支援をとらえることができる。 3. 地域における認知症患者、家族の現状と課題について理解できる。 4. 在宅における療養者、家族への地域支援について理解できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 在宅生活を継続するためのリハビリテーション的考え方 (浅香) 第 2 回 地域リハビリテーションを構成する専門職の連携と課題 (浅香) 第 3 回 家族関係における倫理的課題① (倉林) 第 4 回 家族関係における倫理的課題② (倉林) 第 5 回 認知症高齢者 (若年性認知症患者を含む) 及び家族のおかれている現状の理解 (大澤) 第 6 回 認知症を持つ患者への地域支援 (大澤) 第 7 回 在宅における療養者への支援の在り方 (棚橋) 第 8 回 地域支援に関する課題と今後の展望 (棚橋)		
評価方法	レポート (60%) 授業参加度・貢献度 (40%)		
参考書テキスト等	日本難病看護学会誌 日本在宅ケア学会誌 見藤隆子他著：看護師職者のための政策過程入門 その他適宜指示する		
授業外学習の内容	地域支援や連携に関して多方面からの内容になっているので、事前に関連文献等から事前学習をして参加すること。		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	健康科学特論	英文名	Advanced Health Science
担当者	桑原 敦志、入澤 孝一、角野 善司		
時期・単位	1年 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	健康寿命の延伸には、栄養、身体活動・運動、心の安静、生体防御機構(免疫)の維持、生活習慣病の予防が必須である。栄養については、「医療栄養学特論」において教授するので、本授業では、健康のしくみ、身体活動・運動、心の安静、免疫の健康維持における重要性、生活習慣病予防を科学的根拠に基づき理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康とは何か、健康の概念について理解できる。 2. 健康の維持・増進と身体活動・運動との関連性について理解できる。 3. 身体的健康と精神的健康の関連性について理解できる。 4. ストレスによる生体反応と健康障害のメカニズムおよび効果的なストレス対処法について理解できる。 5. 生体防御と免疫機構について理解できる。 6. 生活習慣病について理解できる。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 健康科学とは？健康寿命の延伸を目指すために（桑原） 第 2 回 運動と健康および健康障害－骨粗しょう症予防と筋力トレーニング実技（入澤） 第 3 回 運動と健康および健康障害－肥満防止のための有酸素トレーニング実技（入澤） 第 4 回 運動と健康および健康障害－生活習慣病防止のためのトレーニング管理（入澤） 第 5 回 身体活動・運動の評価方法－新体力テスト実技（入澤） 第 6 回 身体的健康と精神的健康の関連性（角野） 第 7 回 身体的健康度の評価方法（角野） 第 8 回 精神的健康度の評価方法（角野） 第 9 回 ストレスと生体反応・健康障害（角野） 第 10 回 ストレス対処行動と評価方法（角野） 第 11 回 生体防御と免疫機構（桑原） 第 12 回 感染症と免疫（桑原） 第 13 回 生活習慣病が招く健康破たんの結果とは（桑原） 第 14 回 生活習慣病予防がもたらす社会的利益（桑原） 第 15 回 食事・運動・ストレスコントロールで健康増進（桑原） 		
評価方法	課題レポート3部（各30％） 授業の積極性（10％）		
参考書 テキスト等	参考書： 海保博之 監修／小杉正太郎 編『朝倉心理学講座 19 ストレスと健康の心理学』朝倉書店 2006年 3,780円		
授業外学習の内容	健康に関する社会的トピックスを授業で取り上げていくので、あらかじめ詳細を調べておくこと。 討論できるように十分に準備すること。		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	病態生理学特論	英文名	Advanced pathophysiology
担当者	田中 聡一、鈴木 忠、桑原 敦志		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	患者の身体状況を把握し、適切な診療に結び付けていくために、エビデンスに基づいた情報収集と判断が必要である。そのために必要な臨床検査の種類とその意義について学習し、臓器別の病態生理学を詳細に学び、患者の全体的な病態生理を把握する。	
	到達目標	患者の健康管理・病態把握・病状管理のために必要な理学的所見および病態生理を説明できる。その結果、適切な病態把握と臨床検査の方法、そしてそれを身体所見と結びつけて考え、適切な治療を選択できる。また、理学的所見や臨床検査学を通じて得られた情報から、病態生理の知識に裏づいた医療的今日が実践できる。	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 臨床検査・尿検査と病態生理（桑原） 第 2 回 血液・生化学検査と病態生理（桑原） 第 3 回 血清・免疫検査と病態生理（桑原） 第 4 回 微生物検査と病態生理（桑原） 第 5 回 生理機能検査と病態生理（桑原） 第 6 回 画像検査と病態生理（鈴木） 第 7 回 循環器系の生理と疾患；心臓（鈴木） 第 8 回 循環器系の生理と疾患；血圧（鈴木） 第 9 回 循環器系の生理と疾患；血管系（鈴木） 第 10 回 内分泌器系の生理と疾患（鈴木） 第 11 回 消化器系の生理と疾患（田中） 第 12 回 腎・泌尿器系の生理と疾患（田中） 第 13 回 神経系の生理と疾患（田中） 第 14 回 運動器、感覚器の生理と疾患（田中） 第 15 回 口腔の生理と疾患（田中） 		
評価方法	授業参加度・貢献度（30％） レポート（70％）		
参考書 テキスト等	北川美千代（2012）臨床家のための基礎からわかる病態生理学（医道の日本社）		
授業外学習の内容	授業内容が豊富であるから復習が欠かせない。参考書を予習復習すること。		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	医療栄養学特論	英文名	Advanced medical nutrition
担当者	竹内 真理		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	傷病者の為の適切な栄養療法を見極め、治療方針（栄養療法）の提案をする為の知識を身につけること。および栄養食事指導において、傷病者がQOLを損なうことなく栄養療法を実践できる為の知識を身につけることを目的とする。	
	到達目標	臨床現場における傷病者の様々な病態を把握し、疾病に応じた栄養療法を選択できる力を修得する。また、ベッドサイドでの栄養管理を実施し、栄養ケアプランを立案する能力を習得する。さらに、NST活動などのチーム医療においてディレクターやアシスタントディレクターとして活躍できる力を養う。	
当該科目の内容・計画	第 1 回 栄養評価方法、栄養スクリーニングと栄養アセスメント 第 2 ～ 3 回 栄養補給量（投与エネルギー、栄養素、水、電解質など）の算定、栄養補給法の選択 第 4 ～ 5 回 栄養ケアプランの立案（診断計画、治療計画、教育計画） 第 6 ～ 7 回 栄養補給の方法（経口栄養補給、経腸栄養補給）、補助食品の使い方 第 8 回 栄養補給の方法（静脈栄養補給）、モニタリングと評価 第 9 ～ 10 回 栄養アセスメントのチーム医療での活用 第 11 回 病態別栄養管理（内科領域） 第 12 ～ 13 回 病態別栄養管理（外科領域）、疾患の判定基準と管理目標値 第 14 回 NST活動 第 15 回 まとめ		
評価方法	授業中の発表や発言内容（50%）、学習意欲（20%）、レポート提出（30%）にて、総合的に評価する。		
参考書テキスト等	病態栄養専門師ガイドブック、NSTガイドブック、日本静脈経腸栄養学会雑誌および日本病態栄養学会雑誌などから抜粋		
授業外学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> 配布資料の指定箇所を事前に目を通し予習しておくこと。 学習した内容を次の講義までに再度確認し、復習しておくこと。 		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	薬物動態学特論	英文名	Advanced Biopharmaceutics
担当者	荻原 琢男		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	薬物の生体膜透過機構、生体内での吸収、体内分布、代謝および排泄を理解し、ファーマコキネティクス理論による体内薬物濃度の解析と血中薬物濃度モニタリング（TDM）の意義を学ぶ。さらに、患者ごとの病態や年齢、遺伝子多型、併用薬の違いによる薬物の体内動態要因の変動を理解し、患者ごとの薬物の投与経路、投与量および投与間隔を実際の事例を基に解析・決定する手法を学ぶ。	
	到達目標	1. 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。 2. 薬物の代表的な投与方法（剤形、投与経路）を列挙し、その意義を説明できる。 3. 経口投与された製剤が吸収されるまでに受ける変化（崩壊、分散、溶解など）を説明できる。 4. 薬物の生体内分布における循環系の重要性を説明できる。 5. 生体内の薬物の主要な排泄経路を、例を挙げて説明できる。 6. 薬効に個人差が生じる要因および代表的な薬物相互作用の機序について説明できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 回 薬物の生体内運命を理解するための、薬物動態学の意義を学ぶ。 第 2 ～ 3 回 薬物の生体膜透過機構と吸収、代表的な投与方法について学び、薬物動態学と製剤学の関連について理解する。 第 4 ～ 5 回 薬物の体内分布、排泄およびファーマコキネティクス理論の基礎（分布容積、クリアランスなど）を理解する。 第 6 ～ 7 回 薬物の代謝とそれに関わる酵素、その阻害および誘導、代謝に関わる相互作用について理解する。 第 8 回 医薬品の添付文書に記載されている事項を、実例を通じて理解する。 第 9 ～ 10 回 薬効に個人差が生じる要因および代表的な薬物相互作用の機序について、実際の事例を通じて理解する。（演習形式） 第 11 回 薬物動態パラメータの算出方法とその意味について理解する。 第 12 ～ 13 回 薬効に個人差が生じた場合の薬物の投与設計（投与量、投与間隔等）について、実際の事例を通じて理解する。（演習形式） 第 14 回 薬物動態学の最近のトピックス 第 15 回 薬物動態学特論のまとめ		
評価方法	複数回の症例レポート（50%）と期末試験（50%）によって、薬物動態学の総合的な理解度を測る。		
参考書テキスト等	「エピソード薬物動態学」辻彰 京都廣川書店 「薬物速度論演習」 京都廣川書店		
授業外学習の内容	配布資料は1回目の授業の際にすべて冊子にして配布するので、予習・復習の履行を望む。		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	医療倫理学特論	英文名	Advanced Medical Ethics
担当者	倉林 しのぶ、大石 桂子		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	「生殖医療」「脳死」「臓器移植」など、近年の医療倫理学に関する諸問題を学ぶだけでなくとどまらず、臨床現場で起こりうる個々の倫理的問題について、具体的な事例を用い理論的な検討を行う。また、文献購読やグループディスカッションを通して、「医療を行う側」と「医療を受ける側」それぞれの立場における価値観の相違や、倫理的問題を取り巻く背景を理解しながら問題解決の方策を探る。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療を支える人間と生についての基本的な理念を理解できる 2. 現代医療の倫理的問題について、正確な知識と多角的な視野をもつことができる 3. 医療職が臨床で直面する倫理的問題を理解できる 4. 医療職、患者、家族それぞれの価値観の違いを理解できる 5. 倫理的問題の背景を理解しながら、問題解決に向けた方策を検討できる 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 回 医療と意志決定 (1) 自律的な生の意義とは (大石)</p> <p>第 2 回 医療と意志決定 (2) 意志決定支援の取り組み (大石)</p> <p>第 3 回 子どもの権利 生殖医療と治療停止 (大石)</p> <p>第 4 回 エンハンスメント (1) 「より良い生」を求める技術 (大石)</p> <p>第 5 回 エンハンスメント (2) 「人間の弱さ」に価値はあるか (大石)</p> <p>第 6 回 東西の死生観 (1) 病氣と死の受け入れ (大石)</p> <p>第 7 回 東西の死生観 (2) 脳死臓器移植にみる生と死の意味づけ (大石)</p> <p>第 8 回 臨床の倫理 (1) 倫理とは何か (価値・被験者保護の歴史) (倉林)</p> <p>第 9 回 臨床の倫理 (2) 徳と倫理原則 (倉林)</p> <p>第 10 回 臨床の倫理 (3) インフォームド・コンセント (倉林)</p> <p>第 11 回 臨床の倫理 (4) 守秘義務/QOLとSOL (倉林)</p> <p>第 12 回 臨床の倫理 (5) 終末期医療における倫理 (倉林)</p> <p>第 13 回 事例検討 (1) 院生による文献 (倉林)</p> <p>第 14 回 事例検討 (2) 院生による文献 (倉林)</p> <p>第 15 回 事例検討 (3) 院生による文献 (倉林)</p>		
評価方法	レポート (30%) 授業参加度・授業貢献度 (70%)		
参考書 テキスト等	参考書・参考文献 『生命と医療の倫理』伊藤道哉、丸善株式会社 『エンハンスメント論争—身体・精神の増強と先端科学技術—』上田昌文ほか、社会評論社 『日本人の死—日本的死生観への視角—』伊藤益、北樹出版 『臨床倫理学入門』福井次矢編、医学書院、生命倫理学会誌、死の臨床研究会誌		
授業外学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションには積極的に参加すること。 ・事前に文献等を配布された場合、よく読み自分なりの考えをもって講義に参加すること 		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	症状マネージメント特論	英文名	Symptom Management
担当者	縄 秀志、櫻井 美和、吉田 久美子、石田 順子、砂賀道子、武田 貴美子、大澤 幸枝		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	UCLAが開発した症状マネジメント理論を学び、看護実践におけるいくつかの症状について、症状のメカニズムと出現形態、対象の症状の体験を理解し、症状マネジメントを促す看護および看護の成果を評価する視点を検討する。加えて、自分の看護実践体験においてマネジメントが困難であった事例をもとに、独自の症状マネジメント方略を探究する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状マネジメント理論について理解できる。 2. 具体的な症状のメカニズムと出現形態、対象の症状の体験を理解し、症状マネジメントのための看護および看護の成果を評価する視点を検討できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 回 オリエンテーション、UCLAが開発した症状マネジメント理論 (縄)</p> <p>第 2 回 症状マネジメントモデルと統合的アプローチ (縄)</p> <p>第 3 回 子どもの症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護 (櫻井)</p> <p>第 4 回 がん患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護① (吉田)</p> <p>第 5 回 がん患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護② (石田)</p> <p>第 6 回 がん患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護③ (砂賀)</p> <p>第 7 回 腎不全患者の症状のアセスメントを症状マネジメントを促す看護 (武田)</p> <p>第 8 回 認知症患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護 (大澤)</p> <p>第 9 回 看護実践において症状マネジメントが困難である事例を用いて、症状マネジメントモデルを用いて、統合的アプローチを検討する① (グループワーク) (縄)</p> <p>第 10 回 看護実践において症状マネジメントが困難である事例を用いて、症状マネジメントモデルを用いて、統合的アプローチを検討する② (グループワーク) (縄)</p> <p>第 11 回 看護実践において症状マネジメントが困難である事例を用いて、症状マネジメントモデルを用いて、統合的アプローチを検討する③ (グループワーク) (縄)</p> <p>第 12 回 事例発表① (縄)</p> <p>第 13 回 事例発表② (縄)</p> <p>第 14 回 事例発表③ (縄)</p> <p>第 15 回 まとめ (縄)</p>		
評価方法	プレゼンテーション (30%) レポート (70%)		
参考書 テキスト等	授業中に配布する資料が中心である 参考としては、田村恵子 (2002) : がん患者の症状マネジメント、学習研究社 を紹介する		
授業外学習の内容	症状マネジメントが困難である事例を作成し、症状マネジメントモデルを用いて、統合的アプローチを検討し、発表するので、主体的な学習が求められる。		

科目区分	共通科目 共通領域分野		
科目名	英文読解・英作文の技法	英文名	English for Health Care Science
担当者	柴山 森二郎		
時期・単位	1年次 後期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	保健医療学の英語論文とその抄録を読んで内容を理解し、その分野で使われる英語の語彙と語法を学び、特に抄録については構成と用語を習得し、英語で抄録を書く能力を養う	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療学の英語論文の抄録を読んでその分野の語彙・語法を習得する。 2. 保健医療学の英語論文を読んでその分野の英語の語彙・語法を習得する。 3. 保健医療学の論文の抄録を英語で書く力を養う。 4. 保健医療学の英語論文で使われる英語のコーパスを作成し、その利用法を学ぶ。 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 回 授業方針説明；研究のタイプと論文の特徴の説明；抄録（予習用）を配布</p> <p>第 2 回 抄録を読む；抄録（予習用）を配布</p> <p>第 3 回 復習；抄録を読む；抄録（予習用）を配布</p> <p>第 4 回 復習；抄録を読む；抄録（予習用）を配布</p> <p>第 5 回 復習；抄録を読む；論文（予習範囲指定）</p> <p>第 6 回 復習；論文（指定範囲）を読む；日本語抄録配布（英訳範囲指定）</p> <p>第 7 回 復習；論文（指定範囲）を読む；日本語抄録（指定範囲）英訳</p> <p>第 8 回 復習；論文（指定範囲）を読む；日本語抄録（指定範囲）英訳</p> <p>第 9 回 復習；論文（指定範囲）を読む；既読英語論文の抄録を書く</p> <p>第 10 回 復習；コーパスの作成と利用法の実習；日本語抄録英訳</p> <p>第 11 回 復習；コーパスの作成と利用法の実習；日本語抄録英訳</p> <p>第 12 回 復習；コーパスの作成と利用法の実習；日本語抄録英訳</p> <p>第 13 回 課題 日本語論文を読んで抄録を英語で書く</p> <p>第 14 回 課題 日本語論文を読んで抄録を英語で書く</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
評価方法	復習小テスト等（40%） 課題（60%）		
参考書 テキスト等	Japan Journal of Nursing Science (JANS) Physical Therapy (APTA) 「英語コーパス言語学 基礎と実践」 改訂新版（研究社出版）		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. やさしい英語（例：図書館にある英語多読教材など）を沢山読む。 2. やさしい英語（例：NHKの基礎英語他、多読教材のCDなど）を沢山聞く。 3. 機会（例：英会話サークルなど）を見つけて英語で会話をする。 		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	看護学研究法	英文名	Advanced Research Methods in Nursing Science
担当者	縄 秀志、吉田 久美子、石田 順子、倉林 しのぶ、砂賀 道子、櫻井 美和、武田 貴美子		
時期・単位	1年次 前期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	<p><1回～15回：量的研究法> 保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および介入研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を学ぶ。</p> <p><16回～30回：質的研究法> 保健医療における質的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。代表的な分析方法（事例研究、内容分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、現象学）について、研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点およびデータの種類、真実性を高めるためのデータ収集・データ分析方法の特徴について学ぶ。</p>	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療における量的研究と質的研究の意義・役割が理解できる。 2. 人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を理解できる。 3. 各研究方法の特徴およびプロセスを理解できる。 	
当該科目の内容・計画	量的研究法	<p><量的研究法></p> <p>第 1 回 保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割、研究倫理（縄）</p> <p>第 2 回 文献クリティーク（縄）</p> <p>第 3 回 実験、準実験研究のプロセス（縄）</p> <p>第 4 回 実験、準実験研究における妥当性・信頼性（縄）</p> <p>第 5 回 学生による実験、準実験研究の文献クリティークのプレゼンテーションとディスカッション（縄）</p> <p>第 6 回 調査研究のプロセス（石田）</p> <p>第 7 回 調査研究における妥当性・信頼性（石田）</p> <p>第 8 回 学生による調査研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（石田）</p> <p>第 9 回 尺度開発のプロセス（吉田）</p> <p>第 10 回 尺度開発における妥当性・信頼性（吉田）</p> <p>第 11 回 学生による尺度開発の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（吉田）</p> <p>第 12 回 介入評価研究のプロセス（縄）</p> <p>第 13 回 介入評価研究の妥当性・信頼性（縄）</p> <p>第 14 回 学生による介入研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（縄）</p> <p>第 15 回 量的研究法のまとめ（縄、石田、吉田）</p>	
	質的研究法	<p><質的研究法></p> <p>第 16 回 保健医療における質的研究の意義・役割、研究倫理（櫻井）</p> <p>第 17 回 質的研究のプロセス（櫻井）</p> <p>第 18 回 質的研究における真実性を高める対象選定・データ収集とは（櫻井）</p> <p>第 19 回 質的研究における真実性をたかめるデータ分析とは（櫻井）</p> <p>第 20 回 質的研究における真実性をたかめる結果・考察とは（櫻井）</p> <p>第 21 回 内容分析とは（櫻井）</p> <p>第 22 回 内容分析の研究プロセス（倉林）</p> <p>第 23 回 内容分析の研究プロセス（倉林）</p> <p>第 24 回 事例研究とは（武田）</p> <p>第 25 回 事例研究のプロセス（武田）</p> <p>第 26 回 グラウンデッド・セオリー・アプローチと修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（砂賀）</p> <p>第 27 回 グラウンデッド・セオリー・アプローチ演習（砂賀）</p> <p>第 28 回 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの文献クリティーク（砂賀）</p> <p>第 29 回 学生による質的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）①（櫻井、倉林、武田、砂賀）</p> <p>第 30 回 学生による質的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）②（櫻井、倉林、武田、砂賀）</p>	
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書 テキスト等	<p>黒田裕子監訳（2007）：バーンス&グローブ看護研究入門-実施・評価・活用-，エルゼビア・ジャパン Burns & Grove（2009）：The practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence（6th Ed）, ELSEIER SAUNDERS.</p> <p>刘馬栄輝（2010）：医療系研究論文の読み方・まとめ方，東京図書</p> <p>刘馬栄輝、石田水里（2013）：医療系データのとり方・まとめ方，東京図書</p> <p>野口美和子監訳（2006）：ナースのための質的研究入門，医学書院</p> <p>菅間真美（2007）：質的研究実践ノート，医学書院</p> <p>オムクレイクヒル滋子：質的研究方法ゼミナール グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ 医学書院</p> <p>木下康之：M-GTA グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い 弘文堂</p> <p>木下康之：ライブ講義 M-GTA 弘文堂</p>		
授業外学習の内容	<p>予習を必ず行い、疑問を明確にして授業に臨むこと。文献検索の方法を熟知していること。</p> <p>自分の研究テーマに関する各研究方法の文献のクリティークおよびミニ文献レビューのレポートを提出する。</p>		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅰ	英文名	Advanced Critical Care Nursing I
担当者	縄 秀志、千明 政好、片貝 智恵		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	急性期看護、クリティカルケア看護において重要な概念や理論について、具体的な現象（患者の全身管理、日常生活ケアや苦痛緩和に対するケア、心理的・教育的ケア）から捉える。また、急激な生命の危機状態にある患者・家族の反応を理解し、ストレスや葛藤を抱く中で自己決定権の尊重や患者としての権利を尊重し、健康レベルを高め、QOLの向上を目指すための看護実践方法および看護実践の課題について探求する。	
	到達目標	1. クリティカルケア看護学・急性期看護学における重要な概念・理論について実際の現象から理解できる。 2. 急性期看護・クリティカル看護領域における健康障害を抱えながら生活する成人期の患者と家族の反応を理解し、必要な看護実践方法および課題について理解できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 2 回	急性期看護・クリティカルケア看護領域の患者・家族の反応について/ストレスコーピング理論（縄）	
	第 3 ～ 4 回	急性期看護・クリティカルケア看護領域の看護実践の特徴について/ケアリング理論（縄）	
	第 5 ～ 6 回	急性期看護・クリティカルケア看護領域の看護実践の特徴について/症状マネジメント理論（縄）	
	第 7 ～ 8 回	急性期看護・クリティカルケア看護領域の看護実践の特徴について/Comfort理論（縄）	
	第 9 回	ICU/CCUにおける患者の身体的・心理的反応の特徴について（片貝）	
	第 10 ～ 11 回	ICU/CCUにおける全身管理および日常生活ケアの実際と課題について（片貝）	
	第 12 回	ICU/CCUにおける患者の苦痛症状および苦痛緩和ケアについて（千明）	
	第 13 ～ 14 回	ICU/CCUにおける患者と家族の権利および自己決定を支えるための看護の実際と課題について（千明）	
	第 15 回	急性期看護・クリティカルケア看護領域における看護実践課題についての発表（縄）	
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	都留伸子監訳（2004）：看護理論家とその業績、医学書院 日本クリティカルケア看護学会誌、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌から論文を紹介する。		
授業外学習の内容	自分の具体的な経験を元に患者・家族の反応および看護実践の課題について検討し、発表し、レポートを作成する。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	がん看護学特論Ⅰ	英文名	Advanced Cancer Nursing I
担当者	吉田 久美子、石田 順子、砂賀 道子、神田 清子、二渡 玉江、岩崎 紀久子		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	成人期におけるがんが患者と家族にもたらす反応、患者の健康、患者と家族のQOLの向上を目指した看護実践のあり方について、がん看護において重要な概念や理論を用いて理解する。がんの告知と治療選択における意思決定を支える看護、手術療法や化学療法に伴う看護、緩和ケアにおける看護についての現状と課題について探求する。	
	到達目標	1. がん看護における重要な概念・理論について実際の現象から理解できる。 2. がん看護領域における健康障害を抱えながら生活する成人期の患者と家族の反応を理解し、必要な看護実践方法および課題について理解できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 回	がん看護学の動向について（吉田）	
	第 2 回	がん看護学の基盤となる理論について（吉田）	
	第 3 回	がん看護学の基盤となる理論について（石田）	
	第 4 回	がん看護学における論理的課題と看護の役割について（神田）	
	第 5 回	がんの治療選択における意思決定を支える看護について（石田）	
	第 6 回	化学療法を受ける患者の症状マネジメント/セルフケアについて（吉田）	
	第 7 回	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について/危機理論（二渡）	
	第 8 回	手術を受けるがん患者・家族を支える看護について/適応理論（砂賀）	
	第 9 回	手術を受けるがん患者と家族を支える看護の実際と課題について（砂賀）	
	第 10 ～ 11 回	治療を受けるがん患者を支える家族への看護について（石田）	
	第 12 ～ 13 回	終末期にある患者および家族の全人的苦痛について（岩崎）	
	第 14 ～ 15 回	その人らしく安らかな死を迎えるための緩和ケアの実際と課題について（吉田）	
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	都留伸子監訳（2004）：看護理論家とその業績、医学書院 他 日本看護科学学会誌、日本がん看護学会誌から論文を紹介する。		
授業外学習の内容	1. 具体的な経験を元に患者・家族の反応および看護実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料をよく読んでおくこと。 2. 対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるように、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	老年看護学特論	英文名	Advanced Gerontological nursing
担当者	棚橋 さつき、大澤 幸枝、田中 聡一、角野 善司、吉田 久美子、石田 順子、吉田 剛、齊田 綾子		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	高齢者に特有の健康問題に関する看護アセスメント、生活の自立とQOLの向上を目指した保健・医療・福祉における高齢者の支援やケアマネジメントおよび家族看護などの効果的な看護実践の方法を教授する。また、高齢社会における老年看護の専門的な機能と役割を教授し、チーム医療を担う老年看護課題を考察できる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に特有の健康問題に関する看護アセスメントが理解できる 2. 生活の自立とQOLの向上を目指した高齢者の支援やケアマネジメントが理解できる 3. 家族に対する効果的な看護支援が理解できる 4. 高齢社会における専門的な機能と役割が理解できる 5. チーム医療を担う老年看護専門職としての課題を見出すことができる 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 高齢者ケアと制度の変遷 (1) 高齢者保健福祉医療制度の変遷 (棚橋) 第 2 回 高齢者ケアと制度の変遷 (2) 高齢者保健福祉医療制度の課題 (棚橋) 第 3 回 老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病① (田中) 第 4 回 老化・加齢による高齢者の身体的特徴と疾病② (田中) 第 5 回 高齢者の心理・社会的特徴① (角野) 第 6 回 高齢者の心理・社会的特徴② (角野) 第 7 回 高齢者の生活機能とQOL (吉田剛) 第 8 回 高齢者の健康増進活動 (吉田剛) 第 9 回 認知症ケアの理論と実際① (大澤) 第 10 回 認知症ケアの理論と実際② (大澤) 第 11 回 高齢者とがん看護① (吉田ス) 第 12 回 高齢者とがん看護② (石田) 第 13 回 在宅看護における高齢者ケアの理論と実際 (棚橋) 第 14 回 高齢者看護の専門職としての役割とチーム連携の実際 (老人看護専門看護師) (齊田) 第 15 回 高齢者看護の課題 (大澤) 		
評価方法	レポート80%、授業参加度20%を基準として、総合的に評価する		
参考書テキスト等	中嶋紀恵子：老年看護学、日本看護協会出版会 道場昌孝：臨床老年医学入門；すべてのヘルスケアプロフェッショナルのために、医学書院 橋本肇：高齢者の医療の倫理、中央出版		
授業外学習の内容	老年看護に関するトピックスなどをあらかじめ時間外に学習しておくこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	母子看護学特論 I	英文名	Advanced Maternal & Child Nursing I
担当者	櫻井 美和		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学の対象となる子どもと家族の健康問題を、対象を取り巻く環境を踏まえて最新の研究の動向から考察する。具体的には、ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達過程とその過程を支援する看護の役割、周産期における母性とその家族への支援、地域のサポート体制の構築を教授する。また、子どもの権利を尊重した人格を持つ主体としての子どもも親にたち、子どもの成長発達を理解するための理論、健康障害を持つ子どもと家族に対する看護のあり方を教授する。そして、母子看護学分野における看護師の役割や特性、倫理的問題について探求し、今後の課題を明確にする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子看護学の対象である子どもと家族を理解するために必要な理論を説明する。 2. ライフサイクルにおける母と子、家族の健康と健康課題を説明する。 3. 母子看護における倫理と倫理的課題を説明する。 4. 母子看護学における看護の役割を考察する。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 母子看護学の基盤となる理論 [1]：理論と実践のつながり、対象と環境（エコロジカルモデル） 第 2 回 母子看護学の基盤となる理論 [2]：人間の発達の共通性と発達の影響要因、認知発達理論、発達課題理論 第 3 回 母子看護学の基盤となる理論 [3]：家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論 第 4 回 母子看護学の基盤となる理論 [4]：ソーシャルサポート理論 第 5 回 母子看護学の対象理解の基盤となる理論 [5] Patient-Family Centered Careの基本概念 第 6 回 母子・家族の健康と健康課題 [1]：新生児期の子どもと家族 第 7 回 母子・家族の健康と健康課題 [2]：乳幼児期の子どもと家族① 第 8 回 母子・家族の健康と健康課題 [3]：乳幼児期の子どもと家族② 第 9 回 母子・家族の健康と健康課題 [4]：学童期の子どもと家族① 第 10 回 母子・家族の健康と健康課題 [5]：学童期の子どもと家族② 第 11 回 母子・家族の健康と健康課題 [6]：思春期の対象と家族 第 12 回 母子・家族の健康と健康課題・課題 [8]：青年期から成人移行期の対象と家族 第 13 回 母と子を取り巻く倫理的課題①：子どもの権利条約、小児医療における倫理 第 14 回 母と子を取り巻く倫理的課題②：倫理的意決定モデルの活用による事例検討 第 15 回 母子看護学における看護の役割、総括 		
評価方法	授業参加度・貢献度 (50%) レポート (50%)		
参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> 1) U.ブロンフェンブレンナー著、磯貝芳郎、福富護訳 (2007)：人間発達の生態学 (エコロジ) 発達心理学への挑戦、川島書店 2) 都留伸子監訳 (2004)：看護理論家とその業績、医学書院 3) 舟島なをみ (2011)：看護のための人間発達学 第4版、医学書院 4) M. H. クラウス、J. H. ケネル、P. H. クラウス著、竹内徹訳 (2001)：親と子のきずなはどうかつられるか、医学書院 5) V. R. Browden, C. S. Greenberg. (2014)：Children and Their Families—The Continuum of Nursing Care, Wolters Kluwer Health ※その他、日本看護科学学会誌、日本小児看護学会誌を活用する 		
授業外学習の内容	プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	精神看護学特論	英文名	Advanced Psychiatric Nursing
担当者	田邊 要補		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	精神保健福祉の動向をふまえ、精神看護についての現状と今後の課題を考察する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉の歴史の変遷をふまえ、精神保健福祉制度を理解できる。 2. 精神看護領域で用いられる諸理論・方法論を理解できる。 3. 精神看護における課題を理解できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 オリエンテーション 第 2 回 精神医療・看護の歴史の変遷 第 3 回 精神保健福祉の動向 第 4 回 精神保健福祉対策 第 5 回 精神障がい者・家族のサポートシステム 第 6 回 地域生活を支える考え方 第 7 回 地域生活支援 第 8 回 病院と地域の連携 第 9 回 対人関係理論 第 10 回 セルフケアに関する看護理論 第 11 回 家族に関する理論と家族の機能 第 12 回 疾患・治療に関する理論 第 13 回 精神看護の新しい動き 第 14 回 グループワーク 第 15 回 グループワーク		
評価方法	プレゼンテーション(30%) ディスカッション(20%) レポート(50%)		
参考書テキスト等	原著)大熊輝雄 編集)「現代臨床精神医学」第12版改訂委員会 現代臨床精神医学(第12版) 金原出版 日本精神看護学会誌 日本精神科看護学会誌 その他適宜紹介する		
授業外学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・参考書・テキストは講義前によく読み、予習をしておくこと ・講義は対話形式で行う、積極的に発言すること 		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	在宅看護学特論	英文名	Advanced Home Care Nursing
担当者	棚橋 さつき		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	在宅看護に関連する医療施設や地域における療養者の現状と課題について理解するために、在宅で多い療養者の事例を通して学ぶ。また、在宅療養支援における看護のあり方などから自己の課題を理解する。	
	到達目標	各自の経験事例を含めた訪問看護事例検討(高齢者、ターミナル、小児、難病等)により、高度訪問看護実践に必要な能力についての知識、理解を深める。 また、在宅看護に関連する保健医療福祉の諸制度(介護保険、医療保険、特定疾病研究事業等)やケアシステムについて理解する。	
当該科目の内容・計画	第 1 回 在宅看護の理念と概念 第 2 ～ 3 回 在宅療養を支える諸制度の理解 第 4 ～ 5 回 在宅看護におけるケアマネジメントの展開：事例検討(高齢者) 第 6 ～ 7 回 在宅看護におけるケアマネジメントの展開：事例検討(ターミナル) 第 8 ～ 9 回 在宅看護におけるケアマネジメントの展開：事例検討(小児) 第 10 ～ 11 回 在宅看護におけるケアマネジメントの展開：事例検討(難病) 第 12 ～ 13 回 在宅における家族看護論 第 14 回 保健医療福祉の協働：チームアプローチ 第 15 回 在宅看護の展望と課題		
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や事例素材の準備、プレゼンテーションにより総合的に判断する。 事例検討成果・レポート(60%) 授業参加態度・貢献度(40%)		
参考書テキスト等	日本難病看護学会誌 日本在宅ケア学会誌 見藤隆子他著：看護師職者のための政策過程入門 その他適宜指示する		
授業外学習の内容	事例に関しては、事前学習をしてから望んでほしい。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	看護管理学特論Ⅰ	英文名	Advanced Nursing Administration SettingsⅠ
担当者	池田 優子、棚橋 さつき、木村 憲洋		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	医療の高度化の中で、必要とされるマネジメントの在り方について、マネジメントの概念や歴史を含めた諸理論について教授する。また、医療を巡る変化の中で、病院から在宅まで、一貫した看護の質を保証するためのチーム医療の推進とそれを中核で担う看護者のマネジメント能力育成の課題について探求する。更に病院組織や訪問看護ステーションにおける経営や看護管理に必要な諸理論の理解と管理運営方法について教授する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. マネジメントに関する諸理論について理解できる。 2. 看護マネジメントに必要な対人関係調整能力の概要を理解できる。 3. 病院および訪問看護事業所における看護管理・経営の特徴について理解できる。 4. 自己の経験を生かし看護管理上の課題と今後の方向性を探求することができる。 5. 病院と在宅との連携の事例を通して、問題と課題を明確化し、チーム医療のあり方について理解する。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 看護管理の基盤となる理論について (池田) 第 2 回 組織とマネジメント (池田) 第 3 回 リーダーシップとマネジメント (池田) 第 4 回 マネジメントに必要な対人関係調整能力 (池田) 第 5 回 医療者間に必要なコミュニケーションスキル (池田) 第 6 回 アサーティブネスの理論と実際 (池田) 第 7 回 人材育成とコーチング (池田) 第 8 回 管理者のストレスマネジメント (池田) 第 9 回 チーム医療に必要なネゴシエーションスキル (池田) 第 10 回 病院経営と医療 (木村) 第 11 回 病院経営収益管理 (木村) 第 12 回 病院と在宅との連携について (棚橋) 第 13 回 チーム医療について (棚橋) 第 14 回 在宅看護経営の特徴 (棚橋) 第 15 回 まとめ (池田) 		
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度やプレゼンテーション内容から総合的に判断する。		
参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 井部俊子・中西睦子監修：看護管理学習テキスト 全8巻 日本看護協会出版会 2. Peter.F.Drucher：Management Taska,Responsibilities,Practices,上田惇生訳、マネジメント 基本と原則、ダイヤモンド社 3. P.Hersey,K.H.Blunchard,D.E.Johnson:Management ob Organigational Behavior:Utilizing Human Resources,山本成に、山本あずさ訳、入門から応用へ 行動科学の展開、(新版) 人的資源の活用、生産性出版 		
授業外学習の内容	学習したマネジメント及び看護マネジメントに関する理論をもとに、自己の経験と照らし合わせながら課題を抽出し、レポートにまとめること。そのために国内外の文献検索を行うこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	看護技術学特論Ⅰ	英文名	Advanced Nursing Art and ScienceⅠ
担当者	縄 秀志		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について理解する。また、具体的な看護技術のエビデンスを調べ、臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について理解できる。 2. 具体的な看護技術(温電法ケア、足浴ケア、背面開放座位ケア、体圧分散ケアなど)のエビデンスを調べることができる。 3. 臨床経験の中から積み上げられ、伝承されてきた看護技術を科学的に解き明かす研究や技術開発の必要性について理解できる。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 看護技術の条件について 第 2 ～ 3 回 温電法ケアのエビデンスの構築について 第 4 ～ 5 回 関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンス1 第 6 ～ 7 回 関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンス2 第 8 ～ 9 回 腰背部温電法ケアの開発とエビデンスの構築に向けての研究 第 10 ～ 11 回 関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究1 第 12 ～ 13 回 関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究2 第 14 回 関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究3 第 15 回 まとめ 		
評価方法	プレゼンテーション(30%) レポート(70%)		
参考書テキスト等	<p>Bulechek (1999) : Nursing Intervention, Effective Nursing Treatments. 3rd Ed. Saunders 早川和生監訳 (2004) : 看護介入 : NICから精選した43の看護介入, 医学書院 Snyder (1992) : Independent Nursing Interventions, Delmer Pub. 日本看護技術学会誌、聖路加看護学会誌、日本看護科学学会誌から論文を紹介する</p>		
授業外学習の内容	関心のある看護技術について文献検討をし、現時点でのエビデンスについて発表する。また関心のある看護技術の開発とエビデンス構築に向けた研究の実際について発表する。文献検索方法を熟知しておくこと。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護学共通科目		
科目名	地域看護学特論	英文名	Advanced Lecture on Community Health Nursing
担当者	倉林 しのぶ、宮崎 有紀子		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	地域におけるヘルスプロモーションにかかわる看護の理論と方法について教授する。公衆衛生や健康の概念、個人や集団の健康づくりに向けた健康教育、個人・家族・集団を対象とした看護活動、地域の健康課題の解決のための社会資源の開発と施策への反映について、対象別の実践方法、保健医療福祉の連携とシステム化といった側面から教授する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の概念について理解できる。 2. 健康教育、健康管理に関する保健師の活動とその根拠について理解できる。 3. 地域で生活する個人・家族・集団に対する看護活動のあり方について考察を深めることができる。 4. 地域の健康問題解決のための社会資源や施策について考察できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 オリエンテーション (倉林) 第 2 回 公衆衛生看護の概念 (宮崎) 第 3 回 健康教育にかかわる理論と実践例 (宮崎) 第 4 回 ヘルスプロモーションに関する理論と実践例 (宮崎) 第 5 回 地域の健康指標および特性の把握 (宮崎) 第 6 回 地域における保健医療福祉の連携とシステム化① (倉林) 第 7 回 地域における保健医療福祉の連携とシステム化② (倉林) 第 8 回 健康危機管理 (宮崎) 第 9 回 地域保健活動の評価方法 (宮崎) 第 10 回 在宅療養者への支援 (倉林) 第 11 回 社会資源と地域ケアシステム① (倉林) 第 12 回 社会資源と地域ケアシステム② (倉林) 第 13 回 家族支援 (倉林) 第 14 回 地域看護活動における倫理的側面 (倉林) 第 15 回 まとめ (倉林)		
評価方法	授業参加度 (50%) レポート (50%)		
参考書テキスト等	金川克子ほか訳「コミュニティズパートナー」医学書院 「保健ジャーナル」「公衆衛生」「公衆衛生情報」等の雑誌		
授業外学習の内容	関連する文献の検索、検討を各自で行うこと		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	英文名	Advanced Critical Care Nursing II
担当者	縄 秀志		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践について記述し、その現象をケアリング理論、ストレスコーピング理論、症状マネジメント理論、Comfort理論から捉え直し、対象の健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践について記述できる。 2. 記述した現象をケアリング理論、ストレスコーピング理論、症状マネジメント理論、Comfort理論から捉え直すことができる。 3. クリティカルケアにおける対象の健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 クリティカルケアにおける患者・家族の課題と看護実践の課題について 第 2 ～ 4 回 クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践について記述する。 第 5 ～ 8 回 記述した現象についてケアリング理論、ストレスコーピング理論、症状マネジメント理論、Comfort理論などを用いて分析する。 第 9 ～ 12 回 記述した現象の中心的テーマについて文献レビューを行い、現時点でのエビデンスをまとめる。 第 13 ～ 15 回 記述した現象を元にクリティカルケアにおける対象の健康問題と問題解決に向けた看護実践方法および課題を明確化し、発表する。		
評価方法	プレゼンテーション (30%) レポート (70%)		
参考書テキスト等	卯野木健監訳 (2007) : AACNクリティカルケア看護マニュアル第5版、エルゼビア・ジャパン、日本クリティカルケア看護学会誌、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、聖路加看護学会誌から論文を紹介する		
授業外学習の内容	クリティカルケアの実践の場で現れている患者・家族の反応と看護実践の課題について明確化し、発表する。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。文献検索について熟知していること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅰ	英文名	Seminar : Advanced Critical Care Nursing I
担当者	縄 秀志		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	特論Ⅰで明確にしたクリティカルケアの看護実践における課題を解決する方法について文献検討およびディスカッションから導き出し、実践に適用できるアセスメント方法や看護介入プログラムを作成する。看護介入プログラムを作成した場合には、介入の効果を判断する効果指標も作成する。	
	到達目標	1. クリティカルケアの看護実践の課題の解決方法について文献検討から導き出せる。 2. 実践課題を解決するためのアセスメント方法や看護介入プログラムを作成できる。 3. 作成したアセスメント方法や看護介入プログラムの実践への適用について検討できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 回 クリティカルケアにおける患者・家族の課題と看護実践の課題解決について 第 2 ～ 6 回 クリティカルケアにおける患者・家族の課題と看護実践の課題解決の方法について文献検討から導き出し、発表する。 第 7 ～ 11 回 文献検討を元に課題解決に向けたアセスメント方法や看護介入プログラムを作成し、発表する。看護介入プログラムを作成した場合には、介入の効果を判断する効果指標も作成する。 第 12 ～ 15 回 作成したアセスメント方法や看護介入プログラムの実践への適用について検討し、修正し、発表する。		
評価方法	プレゼンテーション (30%) レポート (70%)		
参考書テキスト等	日本クリティカルケア看護学会誌、日本看護技術学会誌、日本看護科学学会誌、日本がん看護学会誌から論文を紹介する。		
授業外学習の内容	特論Ⅰで明確化した課題について、文献検討を元に実践に適用できる課題解決に向けたアセスメント方法や看護介入プログラムを作成し、発表する。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	英文名	Seminar : Advanced Critical Care Nursing II
担当者	縄 秀志		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	特論Ⅰ、演習Ⅱ、特論Ⅱで検討したアセスメント方法や看護介入プログラムを基に、研究テーマを明確化する。研究テーマから研究目的を導き、研究デザイン、研究方法について検討する。研究テーマの明確化、対象の選定、介入研究の場合には介入方法の確立、データ収集方法・データ分析方法について文献検討を基に検討する。	
	到達目標	1. 研究テーマおよび研究目的の明確化ができる。 2. 研究目的に合った研究デザイン・研究方法（対象者の選定、介入研究の場合には介入方法の確立、データ収集方法・データ分析方法）が検討できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 5 回 今までの学習を基に研究テーマおよび研究目的を明確化する。 第 6 ～ 10 回 研究デザイン、研究方法、研究フィールドについて検討する。 第 11 ～ 15 回 対象者の選定、介入方法の確立、データ収集方法、データ分析方法を検討する。		
評価方法	プレゼンテーション (50%) レポート (50%)		
参考書テキスト等	特に指定しない		
授業外学習の内容	研究計画書作成に向けた研究デザイン、研究方法の検討を行う。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	英文名	Seminar : Advanced Critical Care Nursing III
担当者	縄 秀志		
時期・単位	2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅱで検討した内容を基に研究計画書を作成し、プレテストを実施し、計画書の修正を行う。	
	到達目標	1. 研究計画書を作成できる。 2. プレテストを基に研究計画書の修正ができる。	
当該科目の内容・計画	2年次4月から5月に開講する 第 1 ～ 5 回 研究計画書の作成（研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化） 第 6 ～ 10 回 プレテストの実施 第 11 ～ 15 回 研究計画書の修正		
評価方法	実習内容 (50%) レポート (50%)		
参考書テキスト等	特に指定しない		
授業外学習の内容	演習Ⅱで作成したアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標を実践で実施し、事例をまとめ、特別研究で用いるアセスメント方法や看護介入プログラムおよび効果指標を確定する。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	がん看護学特論Ⅱ	英文名	Advanced Cancer Nursing Ⅱ
担当者	吉田 久美子		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	成人期におけるがん患者と家族ががんや治療から受ける影響をふまえ、患者と家族のQOLの向上を目指した看護実践のあり方について、セルフケア理論やセルフエフィカシーなどの理論を用いて理解する。特に、化学療法や放射線療法に伴う看護、緩和ケアにおける看護についての現状と課題について探求する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護におけるセルフケア理論やセルフエフィカシーについて実際の現象と結びつけ理解できる。 2. 化学療法や放射線療法、緩和ケアを受ける患者の特徴を理解し、必要な看護実践方法および課題について理解できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 回 がん看護学に活用できる理論について</p> <p>第 2 回 化学療法を受ける患者の特徴と抱える問題について</p> <p>第 3 回 放射線療法を受ける患者の特徴と抱える問題について</p> <p>第 4 回 緩和ケアを受ける患者の特徴と抱える問題について</p> <p>第 5 回 がん看護学とセルフケア理論について-1</p> <p>第 6 回 がん看護学とセルフケア理論について-2</p> <p>第 7 回 がん看護学とセルフケア理論の活用と課題について-3</p> <p>第 8 回 がん看護学とセルフエフィカシーについて-1</p> <p>第 9 回 がん看護学とセルフエフィカシーについて-2</p> <p>第 10 回 がん看護学とセルフエフィカシーの活用と課題について-3</p> <p>第 11 回 治療を受けるがん患者を支える家族への看護について</p> <p>第 12 ～ 13 回 緩和ケアを受ける患者を支える家族への看護について</p> <p>第 14 ～ 15 回 治療・緩和ケアを受ける患者と家族を支援する看護について</p>		
評価方法	プレゼンテーション (30%) レポート (70%)		
参考書テキスト等	授業で紹介する		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 具体的な経験を元に患者・家族の反応および看護実践の課題について検討できるよう、配布された授業資料や文献をよく読んでおくこと。 2. 対話形式の授業のためディスカッションに積極的に参加できるよう、事前学習の課題について授業で紹介された参考文献などを活用し取り組むこと。 		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	がん看護学演習Ⅰ	英文名	SeminarⅠ : Advanced Cancer Nursing
担当者	石田 順子、吉田 久美子、砂賀 道子		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	がん患者の特徴と看護の概要を経過別にとらえ、先行研究の結果と関連づける。また看護を探究するためにセルフケア理論、ストレス-コーピング理論、家族看護学の理論、緩和ケアなどの理論を活用しながら対象の生活の質 (QOL) を高めるための看護の課題を、チーム医療の中の看護師の役割を踏まえ明確化する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん患者及びその家族の特徴について述べることができる。 2. がん患者およびその家族の特徴と援助について理論や概念を適用することにより科学的に理解し述べることができる。 3. がん看護学で活用されやすい理論や概念と看護実践の関連について説明できる。 4. チーム医療の中の看護師の役割をふまえ、がん看護の臨床的課題の概要について説明できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 回 がん看護における患者・家族の課題の探求 (石田)</p> <p>第 2 ～ 5 回 がん患者とその家族の課題のアセスメント</p> <p> (第 2 回) 告知時から手術終了までのがん患者とその家族の課題のアセスメント (石田)</p> <p> (第 3 回) 化学療法を受けるがん患者とその家族の課題のアセスメント (石田)</p> <p> (第 4 回) 放射線療法を受けるがん患者とその家族の課題のアセスメント (吉田)</p> <p> (第 5 回) 終末期におけるがん患者とその家族の課題のアセスメント (吉田)</p> <p>第 6 ～ 8 回 看護研究におけるがん看護学で活用されやすい理論や概念の活用</p> <p> (第 6 回) ストレス・コーピング理論等について (砂賀)</p> <p> (第 7 回) セルフケア理論・スピリチュアルケア理論等について (吉田)</p> <p> (第 8 回) 家族看護学に使用できる理論について (石田)</p> <p>第 9 ～ 10 回 がん看護学で活用されやすい理論や概念と看護実践の関連 (吉田)</p> <p>第 11 ～ 12 回 がん看護における中心的な実践課題の文献レビューを行い課題を明確化</p> <p>第 13 ～ 15 回 チーム医療におけるがん看護の役割について、明確になった課題の発表 (石田)</p>		
評価方法	講義への参加状況・プレゼンテーション (30%) レポート (70%)		
参考書テキスト等	<p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん看護コアカリキュラム、医学書院 ・DFボーリット、B.P. ハングラー著、近藤潤子監訳、看護研究原理と方法 ・Nancy Burns,SuzanK.Grove著、黒田裕子他訳、看護研究入門、エルゼビア・ジャパン <p>その他看護学会誌 (日本がん看護学会等) を活用する。</p>		
授業外学習の内容	がん患者に活用されやすい理論や理論を用いた先行研究について事前に購読したうえで読むこと		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	がん看護学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ : Advanced Cancer Nursing
担当者	石田 順子、吉田 久美子、砂賀 道子		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	告知時から終末期にあるがん患者と家族を対象に、演習Ⅰで学習したがん看護学で活用されやすい理論と看護の役割に対する理解のもとに、必要かつ優先度の高い看護研究のテーマを明確にする。そして研究枠組みを構築し研究目的に適した計画書を作成することができる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各期のがん患者と家族の看護の課題とその重要性や必要性を述べることができる。 2. 興味・関心が深い課題の先行研究についてクリティックができる。 3. 看護研究の目的を焦点化し、テーマを設定することができる。 4. 研究の枠組みを作成し、研究計画書の原案を作成する。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回	各期のがん患者と家族の看護の課題とその重要性や必要性について	
	第 2 ～ 3 回	各期のがん患者と家族の看護の課題とその重要性や必要性について文献検討を行い、まとめて発表する。	
	第 4 回	がん看護に関する研究のクリティックについて	
	第 5 ～ 6 回	興味・関心が深いがん看護の課題に関する研究のクリティックを行い、発表する。	
	第 7 ～ 9 回	研究の目的を焦点化し、研究テーマを設定する。	
	第 10 ～ 15 回	研究テーマに沿った研究の枠組みを作成し、理論的サブ煤トラクションを基盤に研究計画書の原案を作成する。	
評価方法	講義への参加状況・プレゼンテーション (30%) レポート (70%)		
参考書テキスト等	参考文献 ・がん看護コアカリキュラム、医学書院 ・DFボーリット、B.P. ハングラー著、近藤潤子監訳、看護研究原理と方法 ・Nancy Burns,SuzanK.Grove著、黒田裕子他訳、看護研究入門、エルゼビア・ジャパン その他看護学会誌（日本がん看護学会等）を活用する。		
授業外学習の内容	各自の興味関心がありさらに深めたい課題に関する学習を行い、また資料を持参したうえで臨むこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	がん看護学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ : Advanced Cancer Nursing
担当者	石田 順子		
時期・単位	2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅱで作成した急性期・周手術期にあるがん患者に関する研究計画について再検討を行い、問題点や改善点を明確にし、研究計画書を実践可能なものにする。そして、特別研究に向けて準備を整える。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱで作成した研究計画書が実践可能な研究施設と調整を行う。 2. 研究計画書の問題点や課題を整理する。 3. 研究計画書を研究施設等の倫理委員会に申請し許可を得る。 	
当該科目の内容・計画	2年次4月～5月にかけて開講する。 下記のプログラムに沿って、進めていく。 <ol style="list-style-type: none"> 1 研究施設との調整（研究計画書が実施できるか検討する） 2 研究計画書の問題点・改善点について明確にする。 3 研究計画書の修正 4 倫理委員会への準備と申請 5 プレゼンテーション・まとめ 		
評価方法	レポートや課題への取り組み状況 (30%) プレゼンテーション (70%)		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	がん看護学演習Ⅰ・Ⅱについて各自で学習内容を整理した上で実習に臨むこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	がん看護学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ : Advanced Cancer Nursing
担当者	吉田 久美子		
時期・単位	2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	慢性的な経過をたどるがん患者に関する看護研究プログラムについて実践する。実践する際は、各プログラムの要点をおさえながら進め、プログラムの問題点や課題を考えながら実践する。その後、改善点について明確化を図る。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. がん看護学に関する科目で学び得た知識と技術を具体的な計画のもとで総合的に活用する。 2. 慢性的な経過をたどるがん患者に関する看護研究のプログラムを効果的に実践できる。 3. 実施した看護研究プログラムの問題点や課題を整理できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>下記のプログラムに沿って、実習を進める。実習の対象者には必要時ICを施行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 看護研究プログラムの実施の計画・準備 2 看護研究プログラムの実施・効果について、情報収集を行い、整理する 3 看護研究プログラムの効果の判定・評価 4 プレゼンテーション・まとめ 		
評価方法	レポートや課題への取り組み状況（30%） 他者評価（70%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	がん看護学の関連科目での学習などをふまえて効果的進むよう演習に臨むこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	がん看護学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ : Advanced Cancer Nursing
担当者	砂賀 道子		
時期・単位	2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅱで作成した研究計画書に基づき明らかにした課題を、臨床において実践可能であるか検証する。そして、抽出された問題点及び改善点について整理し、研究計画書の修正を行い、特別研究の円滑な実践につなげられるよう指導する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習Ⅱで作成した研究計画書が実践可能なレベルに到達しているか検討する。 2. 研究実施施設との調整を行い、問題点や修正点を明確にする。 3. 問題点を修正し実践可能な研究計画として完成させ、研究施設の倫理審査を受け承認を得る。 	
当該科目の内容・計画	<p>2年次4月～5月にかけて開講する。</p> <p>下記のプログラムに沿って、進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 研究計画書の検討（実践可能なレベルであるか検証） 2 研究施設との調整 3 研究計画書の問題点、修正点の明確化 4 研究計画書の修正 5 倫理審査の準備および申請 6 プレゼンテーション・まとめ 		
評価方法	レポートや仮題への取り組み状況（30%） プレゼンテーション（70%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	がん看護学演習Ⅰ・Ⅱについて学習内容を整理した上で演習Ⅲに臨むこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	地域・精神看護学特論	英文名	Advanced Community Health & Psychiatric Nursing
担当者	倉林 しのぶ、田邊 要補、宮崎 有紀子		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	地域・精神看護学領域における研究動向を踏まえ、研究課題の明確化と研究計画の作成に向けた文献抄読を行う。国内外の文献抄読により、論文読解能力を高め、研究目的に沿った研究手法について理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域・精神看護学領域における研究課題について検討できる 2. 研究課題に関連する文献のクリティークができる 3. 文献学習を基に、研究の基盤となる理論について理解し、説明ができる 4. 文献学習を基に、研究実践に向けた研究手法について理解し、説明ができる 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 オリエンテーション（倉林） 第 2 回 地域におけるヘルスプロモーションと課題（宮崎） 第 3 回 保健行動とその根拠、および生活習慣病の予防と課題（宮崎） 第 4 回 健康教育等の行動変容に向けた取り組み（宮崎） 第 5 回 地域で生活する療養者と家族支援に関する課題（倉林） 第 6 回 地域におけるグリーフケア（倉林） 第 7 回 遺族ケアと社会資源（倉林） 第 8 回 地域領域における倫理的課題（倉林） 第 9 回 精神領域における倫理的課題（倉林） 第 10 回 退院支援に向けた取り組み（田邊） 第 11 回 地域生活を支える考え方（田邊） 第 12 回 地域生活支援に向けた取り組み（田邊） 第 13 回 精神障がい者自身のスティグマと課題（田邊） 第 14 回 職場における精神保健活動と課題（田邊） 第 15 回 まとめ、総合討論（倉林）		
評価方法	授業参加度（60%） レポート（40%）		
参考書テキスト等	関連文献を提示する		
授業外学習の内容	受講生の興味・関心を基に文献検討を行い、紹介してもらった授業形式であるので、文献検討やプレゼンテーション資料の準備を行うこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	地域・精神看護学演習Ⅰ	英文名	SeminarⅠ：Community Health and Psychiatric Nursing
担当者	倉林 しのぶ、田邊 要補、宮崎 有紀子		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	地域・精神看護学領域における健康課題を多様な角度から捉え、その課題を明確化するためのプロセスを学ぶ。近年の地域・精神看護学の研究動向を踏まえながら、対象とその家族、また保健・医療従事者の健康課題、メンタルヘルス、地域や職場におけるヘルスプロモーション等についての理解を深める。また、喪失体験に関わる臨牀的、倫理的側面の知識を習得し地域におけるグリーフケアについて探究する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する対象およびその家族のもつ健康課題について理解できる。 2. 地域・精神看護学領域における健康課題解決のための理論構築ができる。 3. 地域の特徴を踏まえた看護介入の方法について明確化できる。 4. 課題を解決するためのアプローチについての討論ができる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 2 回 地域・精神看護における対象およびその家族の理解と健康課題の探究 第 3 ～ 6 回 対象および家族のもつ健康課題のアセスメント 第 7 ～ 12 回 フリシード・フロシードモデル、ヘルスピリーフモデル、行動変容ステージ理論、ストレスコーピング理論、家族発達理論、死別における悲嘆プロセスおよび予期悲嘆、病的悲嘆の概念、スピリチュアルペイン、家族間における倫理的問題について 第 13 ～ 15 回 研究課題の明確化と課題発表		
評価方法	ディスカッションとグループワークへの参加（30%） プレゼンテーション（20%） レポート（50%）		
参考書テキスト等	適宜提示		
授業外学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・参考書、テキストは講義前によく読み、予習をしておくこと ・講義は対話形式で行う、積極的に発言すること 		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	地域・精神看護学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ : Community Health and Psychiatric Nursing
担当者	倉林 しのぶ、田邊 要補		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	地域・精神看護学演習Ⅰで捉えた健康課題を解決するための具体的な実践方法について、先行研究や国内外の文献を活用しながら検討する。健康課題に応じた方法論を構築したうえで、研究テーマおよび目的に基づいた実践のためのプログラムを作成する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康課題の背景にある、対象および家族の発達段階や価値観について記述できる 2. 健康課題に関連する国内外の文献について検討しクリティークができる 3. 問題解決のための具体的な実践のためのプログラムの作成ができる 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 ～ 2 回 対象および家族の発達段階とその背景について</p> <p>第 3 ～ 5 回 健康課題に関連する文献抄読とクリティーク・実践プログラムの方向性の検討</p> <p>第 6 ～ 10 回 健康課題の解決に向けた実践プログラムの作成、倫理的配慮についての検討</p> <p>第 11 ～ 13 回 作成した実践プログラムの発表と修正</p> <p>第 14 ～ 15 回 プログラムに基づく実践可能な実習プランの作成</p>		
評価方法	ディスカッションとグループワークへの参加 (30%) プレゼンテーション (30%) レポート (40%)		
参考書テキスト等	適宜提示		
授業外学習の内容	提示された資料については必ず事前学習した上で授業に参加すること。ディスカッションでは積極的に発言すること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	地域・精神看護学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ : Community Health and Psychiatric Nursing
担当者	倉林 しのぶ、田邊 要補		
時期・単位	2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅱで作成した実践プログラムを計画に基づいて実施する。実施に際しては、施設・他職種との連携・調整を図りながら、プログラムの効果や問題点・改善点についても検討し、評価につなげていく。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践プログラムに基づいた実施ができる 2. 実施したプログラムの効果判定、問題点、改善点について整理できる 	
当該科目の内容・計画	<p>2年次4月～6月に開講</p> <p>4 月 実践プログラムに関する全体の流れを確認する 実習場所の選定、データ収集方法、倫理的配慮、分析方法、評価方法等について明確化する 実習施設との具体的な打ち合わせおよび調整の実施</p> <p>5 月～6 月 実習施設におけるプログラムの実施 プログラム実施後の効果、問題点等の情報収集と整理 プログラムの効果判定と評価 プレゼンテーション</p>		
評価方法	実習計画 (20%) 実習への取り組み (20%) ケースレポート (20%) 実習レポート (30%)		
参考書テキスト等	適宜提示		
授業外学習の内容	プログラム実践のための施設・他職種との調整に臨んでは、具体的な計画のもとに実施すること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	母子看護学特論Ⅱ	英文名	Advanced Maternal & Child Nursing II
担当者	櫻井 美和		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題を、対象を取り巻く環境や家族関係も踏まえた上で専門的な視点から見出す。具体的には、文献を精読し理論を押しさえ、そのコアとなる概念を理解する。その上で、子どもと家族の健康問題や課題の解決方策を考察する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子看護学の基盤となる理論に関連する論文を精読し、理解する。 2. 各ライフサイクルにある女性、母性の特徴、および健康障害を抱え生活する子どもと家族の特徴を理解する。 3. 上記2を踏まえ、母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題とその解決方策を考察する。 4. 母子看護学における看護の役割を考察する。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 母子看護学を支える理論[1]：ヘルスプロモーション、子どものセルフケアの発達 第 2 回 母子看護学を支える理論[2]：子どもの気質とParenting、母親役割の達成モデル 第 3 回 母子看護学を支える理論[3]：愛着理論、母子相互作用理論、親・子相互作用モデル 第 4 回 母子看護学を支える理論[4]：ストレス・コーピング理論、子どものストレス・コーピングの発達 第 5 回 ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[1] 第 6 回 ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[2] 第 7 回 ライフサイクルに沿った女性の健康、母性の発達および健康課題と看護[3] 第 8 回 健康障害を抱える子どもと家族への看護[1] 第 9 回 健康障害を抱える子どもと家族への看護[2] 第 10 回 健康障害を抱える子どもと家族への看護[3] 第 11 回 健康障害を抱える子どもと家族への看護[4] 第 12 回 医療的ケアを継続する子どもと家族への看護[1] 第 13 回 医療的ケアを継続する子どもと家族への看護[2] 第 14 回 医療的ケアを継続する子どもと家族への看護[3] 第 15 回 母子看護学における看護の役割、総括 		
評価方法	授業参加度・貢献度（50％） レポート（50％）		
参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> 1) 都留伸子監訳（2004）：看護理論家とその業績、医学書院 2) M. H. クラウス、J. H. ケネル、P. H. クラウス著、竹内徹訳（2001）：親と子のきずなはどうかつられるか、医学書院 3) V. R. Browden, C. S. Greenberg. (2014) : Children and Their Families—The Continuum of Nursing Care, Wolters Kluwer Health ※その他、日本看護科学学会誌、日本小児看護学会誌を活用する		
授業外学習の内容	プレゼンテーション時は、資料を作成し主体的に参加できることを重視する。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	母子看護学演習Ⅰ	英文名	Advanced Seminar I : Advanced Maternal & Child Nursing
担当者	櫻井 美和		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学特論での学びをもとに、母性、子どもと家族の抱える健康課題を明確化する。母性・父性に関する理論、家族理論、子どもの成長と発達に関する理論、保育・教育理論、ソーシャルサポート理論などの諸理論から健康課題を捉えなおし、そのフィールドの特徴を明確化し、看護職の役割と看護介入のあり方が明確化する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母性、子どもと家族の抱える健康課題と看護実践の現状について記述する。 2. 記述した健康課題を、母子看護に関する諸理論から捉えなおす。 3. フィールドの特徴を踏まえ、求められる看護の役割、看護介入方法と課題を明確化する。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 母子看護学の対象となる子どもと家族の抱える健康課題、および看護実践上の課題の探索 第 2 ～ 3 回 文献検討の手法：文献のクリティーク、マトリックス法、サブストラクション、Meta分析、Meta統合、質的研究と量的研究のエビデンス統合 第 4 ～ 8 回 フィールド・ワーク（母子看護学の対象である子どもと家族との継続的な関わり、包括的アセスメント、事例分析など）、文献のクリティークを行い、母子看護学の対象となる子どもと家族が抱える健康課題を捉え直す。 第 9 ～ 13 回 母子看護学の対象となる子どもと家族の抱える健康課題と看護実践上の課題について文献検討を行い、エビデンスを統合する。 第 14 ～ 14 回 フィールドワーク、文献検討から捉えた母子看護学の対象となる子どもと家族の健康課題と看護実践上の課題について、発表する。 		
評価方法	授業参加度・貢献度（10％） プレゼンテーション、クリティーク（30％） レポート（60％）		
参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> 1) ジュティス・ガラード著、安部陽子訳（2012）、看護研究のための文献レビューマトリックス方式 第3版、医学書院 2) キャザリン・ポーフ、ニコライ・メンス、ジェニー・ポベイ著、伊藤景一、北素子監訳（2009）：質的研究と量的研究のエビデンスの統合—ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用、医学書院。 		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習、復習を行い、課題に対して積極的に取り組むこと。 2. 自分で考え、主体的な姿勢で臨むこと。 		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	母子看護学演習Ⅱ	英文名	Advanced Seminar II: Advanced Maternal & Child Nursing
担当者	櫻井 美和		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学演習Ⅰで選定した健康課題を解決するためのアプローチについて、さらに文献検討やディスカッションを実施し、母子看護学の看護実践上の課題について研究的視点から論述し、自己の研究課題を明確化する。その上で、研究課題の概念枠組み、研究手法を検討し、研究計画書を作成する。	
	到達目標	1. 研究課題に対する看護研究のあり方、看護の課題を文献検討をもとに明確化する。 2. 研究課題に対する看護研究プログラムを作成できる。 3. 看護介入プログラムの実践における適用方法を検討することができる。	
当該科目の内容・計画	第 1 回	母子看護学の対象となる子どもと家族が抱える健康課題、および看護実践上の課題について	
	第 2 ～ 6 回	フィールド・ワーク（母子看護学の対象である子どもと家族との継続的な関わり、包括的アセスメント、事例分析など）、文献のクリティーク、文献検討、エビデンスの統合等を行い、研究として取り組みたい母子看護学に関連した研究課題を明確化し、発表する。	
	第 7 ～ 10 回	取り組みたい研究課題の概念枠組み、研究手法（対象者、対象者のサンプリング、分析方法、評価方法等）倫理的課題や配慮について、文献検討をもとに検討する。	
	第 11 ～ 15 回	取り組みたい研究課題に沿った研究計画書の原案を作成し、発表する。	
評価方法	授業参加度・貢献度（10%） プレゼンテーション・クリティーク（30%） レポート（60%）		
参考書テキスト等	1) ジュディス・カワード著、安部陽子訳（2012）、看護研究のための文献レビューマトリックス方式 第3版、医学書院 2) キャサリン・ポー、ニコライ・メンス、ジェニー・ポベイ著、伊藤景一、北素子監訳（2009）：質的研究と量的研究のエビデンスの統合—ヘルスケアにおける研究・実践・政策への活用、医学書院		
授業外学習の内容	1. 課題に対して積極的に取り組むこと。 2. 自分で考え、主体的な姿勢で臨むこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	母子看護学演習Ⅲ	英文名	Advanced Seminar III: Advanced Maternal & Child Nursing
担当者	櫻井 美和		
時期・単位	2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学演習Ⅱで作成した研究計画書に基づき、看護研究プログラムをフィールドで実践し、プログラムの実践や関連職種と連携するための問題点や課題を導出する。実践可能な看護研究プログラムに修正し、特別研究に向けて準備を整える。	
	到達目標	1. 作成した看護研究プログラムを実践する。 2. 実践を通して、看護研究プログラムの問題点や課題を明確化する。 3. 看護研究プログラムを修正する。	
当該科目の内容・計画	第 1 回	フィールド：作成した看護研究プログラムを実施する対象を選定し、実習についての説明を行う。	
	第 2 ～ 6 回	フィールド：作成した看護研究プログラムを実施し、反応、効果について情報収集を行う。	
	第 7 ～ 8 回	学内： ①作成した看護研究プログラムの実施および効果について情報収集をもとにまとめ、実践適用における問題点や課題を明らかにする。 ②実践適用における問題点を踏まえて、作成した看護研究プログラムと評価方法、評価指標の修正を行う。 ③プレゼンテーション	
	第 9 回	フィールド：修正した看護研究プログラムを実施する対象を選定し、実習についての説明を行う。	
	第 10 ～ 13 回	フィールド：修正した看護研究プログラムを実施し、反応、効果について情報収集を行う。	
	第 14 ～ 15 回	学内： ①作成した看護研究プログラムの実施および効果について情報収集をもとにまとめ、実践適用における問題点や課題を明らかにする。 ②実践適用における問題点を踏まえて、作成した看護研究プログラムと評価方法、評価指標の再修正を行う。 ③プレゼンテーションし、看護研究プログラムを確定する。	
評価方法	演習内容（50%） レポート（50%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	自分の課題を演習を通して明確にすること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護技術学特論Ⅱ	英文名	Advanced Nursing Art and Science II
担当者	縄 秀志		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護技術のエビデンスの構築に向けた介入評価研究を実施するうえで有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて学ぶ。介入評価研究における倫理的問題、OUTCOME指標の作成、データ分析方法および看護モデルの構築について学ぶ。	
	到達目標	看護技術のエビデンスの構築に向けた介入評価研究を実施するうえで有用な方法論としての概念分析、サブストラクションについて理解できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 回	概念分析について（Rogersの概念分析）	
	第 2 回	Comfortについての概念分析	
	第 3 ～ 8 回	関心のある概念についてのミニ概念分析	
	第 9 ～ 10 回	サブストラクションについて	
	第 11 ～ 12 回	関心のある介入評価研究におけるサブストラクション1	
	第 13 ～ 14 回	関心のある介入評価研究におけるサブストラクション2	
第 15 回	まとめ		
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	Rogers（2000）：Concept Development in Nursing, 2nd Ed, Saunders 日本看護技術学会誌、聖路加看護学会誌、日本看護科学学会誌から論文を紹介する。		
授業外学習の内容	関心のある概念について概念分析を行い発表する。関心のある介入評価研究についてサブストラクションを作成し、発表する。対話形式の授業なのでディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護技術学演習Ⅰ	英文名	SeminarⅠ：Advanced Nursing Art and Science
担当者	縄 秀志、武田 貴美子		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	注目すべき看護現象を記述し、その現象の中にどのような患者・家族の健康課題があり、それを解決するためにどのような看護技術が用いられているのかを抽出し、注目した看護技術の条件（技術を用いる目的、目的をもたすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性）について文献とディスカッションを通して検討する。	
	到達目標	注目した看護技術の条件である、技術を用いる目的、目的をもたすメカニズム、目的を達せられる臨床上の確立、手法の安全性と実行可能性について明確にできる。	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 3 回	注目すべき看護現象を記述し、その現象の中にどのような患者・家族の健康課題があり、それを解決するためにどのような看護技術が用いられているのかを検討する。	
	第 4 ～ 6 回	関心のある看護技術についての文献検討	
	第 7 ～ 9 回	関心のある看護技術についての技術の条件を明らかにする	
	第 10 ～ 12 回	関心のある看護技術についての現時点におけるエビデンスを明らかにする	
	第 13 ～ 15 回	関心のある看護技術の開発とエビデンスの構築に向けての研究の方向性を明らかにする	
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	看護技術学特論Ⅰに準ずる		
授業外学習の内容	看護技術学特論Ⅰで取り上げた看護技術について、文献を詳細にクリティックし発表する。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護技術学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ：Advanced Nursing Art and Science
担当者	縄 秀志、武田 貴美子		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う。また、注目した看護技術における介入評価研究におけるサブストラクションを作成し、技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマを明確化する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 注目した看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析ができる。 2. 注目した看護技術における介入評価研究を元にサブストラクションが作成できる。 3. 技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマを明確化する。 	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 5 回	注目すべき看護現象の記を元に看護技術の開発およびエビデンスの構築に向けた研究をするために重要となる概念について、概念分析を行う	
	第 6 ～ 10 回	注目した看護技術における介入評価研究を元にサブストラクションを作成する	
	第 11 ～ 15 回	技術開発およびエビデンスの構築に向けた研究テーマの明確化	
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	看護技術学特論Ⅱに準ずる		
授業外学習の内容	看護技術学特論Ⅱで取り上げた概念について概念分析を行い発表する。また看護技術学特論Ⅱで取り上げた看護技術における介入評価研究を元にサブストラクションを作成し発表する。対話形式の授業なので、ディスカッションには積極的に参加すること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護技術学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ：Advanced Nursing Art and Science
担当者	縄 秀志		
時期・単位	2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護技術開発やエビデンスの構築に向けた研究テーマについて妥当な研究方法（研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の選定、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、研究倫理等）を検討し、研究計画書を作成し、プレテストを実施し、計画書を完成させる。	
	到達目標	看護技術開発やエビデンスの構築に向けた研究テーマについて妥当な研究方法を検討し、プレテストを経て、研究計画書が完成できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 5 回	2年次4月から5月に開講する 研究計画書の作成（研究フィールドの条件、研究デザイン、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的配慮の明確化）	
	第 6 ～ 10 回	プレテストの実施	
	第 11 ～ 15 回	研究計画書の修正	
評価方法	研究計画書（100%）		
参考書テキスト等	特に指定しない		
授業外学習の内容	定められた期日までに研究計画書を研究科委員会に提出する。医療機関での研究倫理審査が必要な場合は、6月までには承認が得られるように準備をする。研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認を得なければ研究は実施できない。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護実践開発科学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science
担当者	縄 秀志		
時期・単位	2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅲを通して修正したアセスメント方法や看護介入プログラムを実践の場で実施し、その効果について記述する事例研究の計画書を作成し、発表する。研究計画書に沿って、研究を実施し、作成したアセスメント方法の有用性や看護介入プログラムの効果および他職種との連携のあり方について、修士論文としてまとめ、提出する。	
	到達目標	1. 作成したアセスメント方法や看護介入プログラムを用いた事例研究の計画書が作成できる。 2. 研究計画書に沿って研究を実施し、修士論文としてまとめ提出できる。	
当該科目の内容・計画	6～7月	2年次6月から1月に開講する 事例研究計画書について 事例研究としての計画書の作成 研究テーマ、研究目的、研究デザイン、対象の選定条件、介入方法、データ収集方法、データ分析方法、研究倫理（ICを含む）について明確にし、計画書を作成する。	
	8～10月	計画書に基づいて研究を実施する 計画書審査および研究倫理委員会の承認を経て研究を実施（対象者へのICを得て、介入およびデータ収集を行なう）する。中間発表の準備	
	11～1月	修士論文の作成 データ分析を実施し、課題解決に向けて作成したアセスメント方法の有用性や看護介入プログラムの効果および他職種との連携のあり方について考察し、修士論文を作成し、提出する。	
評価方法	研究計画書（30%） 修士論文（70%）		
参考書 テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	指定された期日までに研究計画書を提出しなければならない。医療機関での研究倫理審査が必要な場合は7月までに承認が得られるように準備する。研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認を得なければ研究は実施できない。指定された期日までに修士論文を提出しなければ単位取得はできない。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護実践開発科学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science
担当者	吉田 久美子		
時期・単位	2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	慢性的な経過をたどる治療を継続しているがん患者の生活の質の向上を目指した看護研究のテーマについて研究計画書をもとにデータを収集する。そして研究目的に適した分析方法により分析し結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる研究を修士論文としてまとめる。	
	到達目標	1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2. がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。	
当該科目の内容・計画	4～6月	研究計画書の再検討・修正	
	7～9月	研究計画書の方法に基づき実践	
	9～10月	データの整理・分析	
	10月	中間発表会のための準備	
	10～1月	研究結果を考察し論文の作成 プレゼンテーション	
評価方法	修士論文とプレゼンテーション（100%）		
参考書 テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	1. 研究のプロセスにおける要点を具体的に理解しながら積極的に研究を進める。 2. がん看護学の修士論文を効率的に作成できるよう、関連文献を有効に活用し研究活動を行うこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護実践開発科学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science
担当者	石田 順子		
時期・単位	2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	がん看護演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤として、治療期（手術を受け、がん化学療法を受けている等）にあるがん患者の症状マネジメント、がん患者と家族の関係性の向上、そしてがん患者と家族の生活の質の向上をめざした看護研究のテーマについて研究計画書をもとにデータを収集する。そして研究目的に適した分析方法により分析し結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる研究を修士論文としてまとめる。	
	到達目標	1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2. がん看護学の課題に対応し発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。	
当該科目の内容・計画	4～5月	計画書の再検討・修正	
	6～9月	計画書の研究方法に基づき実践	
	9～10月	データの整理・分析	
	10月	中間発表会のための準備	
	10～1月	研究結果を考察し論文の作成 プレゼンテーション	
評価方法	修士論文とプレゼンテーション（100%）		
参考書 テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護実践開発科学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science
担当者	砂賀 道子		
時期・単位	2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	がん看護学演習Ⅰ・Ⅱ、実習を基盤として、がんと診断され、治療を受けながらもがんと共に生きるがんサバイバーの生きる力を高め、自律や適応を促す支援を目指した看護研究のテーマについて、研究計画書を基にデータを収集する。そして研究目的に適した分析方法により分析し、結果を体系的に整理し、がん看護学における課題へ対応し発展に寄与しうる研究を修士論文としてまとめる。	
	到達目標	1. 研究のプロセスにおける要点を押さえながら、研究を進めることができる。 2. がん看護学の課題に対応し、発展に寄与しうる修士論文を作成することができる。	
当該科目の内容・計画	4～5月 計画書の再検討・修正 6～9月 計画書の研究方法に基づき実践 9～10月 データの整理・分析 10月 中間発表会のための準備 10～1月 研究結果を考察し論文の作成 プレゼンテーション		
評価方法	修士論文とプレゼンテーション（100%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護実践開発科学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science
担当者	倉林 しのぶ		
時期・単位	2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	地域・精神看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを基盤とした実践プログラムについて、研究計画書に沿って臨床の場面で実施しデータ収集を行う。研究に適した方法によってデータを分析し、系統立てて整理した上で、修士論文としてまとめる。	
	到達目標	1. 研究のプロセスにおける要点をおさえながら、研究を進めることができる。 2. 実施したプログラムについて分析および結果の整理ができる。 3. プログラムの効果、結果、問題点、課題等について論文としてまとめ、提出できる。	
当該科目の内容・計画	2年次4月から1月に開講する。 4～6月 計画書の再検討と修正 7～9月 計画書に沿ってデータ収集を実施 10～11月 データ分析と結果のまとめ 12～1月 論文作成 プレゼンテーション		
評価方法	修士論文とプレゼンテーション（100%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに規定の書式で修士論文を提出することにより、単位の取得が可能となる。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目		
科目名	看護実践開発科学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science
担当者	櫻井 美和		
時期・単位	2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	母子看護学特論Ⅰ、母子看護学特論Ⅱ、母子看護学演習Ⅰ、母子看護学演習Ⅱ、母子看護学演習Ⅲに基づき、母子看護学における看護実践上の課題解決に向けた研究テーマを明確にする。そのうえで、研究計画書を作成し、研究計画書に基づき、データ収集、データ分析を行い、系統的に整理したうえで、修士論文としてまとめ提出する。	
	到達目標	1. 作成した看護介入プログラムを用いた事例研究の計画書を作成することができる。 2. 研究計画書に沿って研究を実施し、修士論文としてまとめることができる。	
当該科目の内容・計画	4～6月 研究テーマ、研究目的、研究方法、対象者の選定条件、データ収集、分析方法を明確にし、研究倫理審査申請書作成、研究計画書を作成する。 7～9月 研究計画書に基づき研究を実施する。 （対象者への説明と同意を得た後、看護介入、データ収集を実施する） 調査結果の集計・科学的分析 10月 研究中間発表の準備 11～1月 修士論文を作成し、提出する。 研究のプレゼンテーションの準備		
評価方法	研究計画書（30%） 修士論文（70%）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	1. 各自でデータ整理や分析方法、論文の作成について事前に学習し、疑問点を明らかにして授業に臨む。 2. 医療機関での研究倫理審査が必要な場合には、7月までに承認が得られるように準備する。 3. 研究科委員会の審査および研究倫理委員会の承認を得なければ研究は実施できない。 4. 指定された期日までに修士論文を提出しなければ単位修得はできない。		

科目区分	専門科目 看護学分野 看護実践開発科学領域専門科目								
科目名	看護実践開発科学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Nursing Practice Science						
担当者	縄 秀志								
時期・単位	2年次 通年 選択8単位								
当該科目の目的	講義目的	看護技術開発やエビデンスの構築に向けた研究テーマについて研究計画書に沿ってデータ収集を行い、客観的・多角的なデータ分析を経て、結果を示し、看護実践への示唆・貢献について検討し、看護技術学における新しい知識の創造に値する修士論文を作成する。							
	到達目標	研究計画書に沿って研究を実施し、看護技術学における新しい知識の創造に値する修士論文を作成できる。							
当該科目の内容・計画	<p>2年次7月から1月に開講する。</p> <table border="0"> <tr> <td>7～9月</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>10～11月</td> <td>データ分析、中間発表の準備</td> </tr> <tr> <td>12～1月</td> <td>修士論文作成</td> </tr> </table>			7～9月	データ収集	10～11月	データ分析、中間発表の準備	12～1月	修士論文作成
7～9月	データ収集								
10～11月	データ分析、中間発表の準備								
12～1月	修士論文作成								
評価方法	修士論文（100％）								
参考書 テキスト等	特に指定しない。								
授業外学習の内容	定められた期日までに修士論文を研究科委員会に提出する。指定された期日までに修士論文を提出しなければ単位取得はできない。								

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目																												
科目名	老年・在宅看護学特論	英文名	AdvancedGerontological and Home Care Nursing																										
担当者	棚橋 さつき、大澤 幸枝、梨木 恵実子																												
時期・単位	1年次 後期 選択2単位																												
当該科目の目的	講義目的	老年・在宅看護について制度や現状について知識を習得する。保健医療福祉の連携やシステムといった側面から在宅で過ごす療養者や高齢者また、認知症高齢者をとらえるように教授する。訪問看護の問題や課題について地域連携や看護連携等から広く考察できるような方策を探る。また、事例や高齢者サポートの実践者から現状と課題について考える。																											
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における療養者の特徴を学ぶ。 2. 訪問看護ステーションの現状、課題について学ぶ。 3. 高齢化社会における認知症のとらえ方、今後の対策や課題について学ぶ。 4. 社会資源を通して老年・在宅看護の課題について考える。 5. 高齢者への社会資源サポートについて理解する。 																											
当該科目の内容・計画	<table border="0"> <tr> <td>第 1 回</td> <td>在宅看護の状況（棚橋）</td> </tr> <tr> <td>第 2 回</td> <td>在宅療養者を支える制度の理解（棚橋）</td> </tr> <tr> <td>第 3 回</td> <td>訪問看護ステーションの現状と課題（棚橋）</td> </tr> <tr> <td>第 4 回</td> <td>在宅看護における家族支援（棚橋）</td> </tr> <tr> <td>第 5 回</td> <td>訪問看護ステーションについて①人材育成（棚橋）</td> </tr> <tr> <td>第 6 回</td> <td>訪問看護ステーションについて②経営・管理（棚橋）</td> </tr> <tr> <td>第 7 回</td> <td>訪問看護ステーションについて③地域連携（棚橋）</td> </tr> <tr> <td>第 8 回</td> <td>在宅看護における事例から今後の対策について（棚橋）</td> </tr> <tr> <td>第 9 回</td> <td>高齢者ケアと制度について（大澤）</td> </tr> <tr> <td>第 10 回</td> <td>認知症施策の方向性とオレンジプランについて（大澤）</td> </tr> <tr> <td>第 11 回</td> <td>高齢者の人権擁護（認知症高齢者や高齢者虐待等）（大澤）</td> </tr> <tr> <td>第 12 回</td> <td>高齢者を取り巻く環境について、事例をとおして学習（大澤）</td> </tr> <tr> <td>第 13～15 回</td> <td>社会資源による高齢者サポート等について実践者から現状と課題について学ぶ（梨木）</td> </tr> </table>			第 1 回	在宅看護の状況（棚橋）	第 2 回	在宅療養者を支える制度の理解（棚橋）	第 3 回	訪問看護ステーションの現状と課題（棚橋）	第 4 回	在宅看護における家族支援（棚橋）	第 5 回	訪問看護ステーションについて①人材育成（棚橋）	第 6 回	訪問看護ステーションについて②経営・管理（棚橋）	第 7 回	訪問看護ステーションについて③地域連携（棚橋）	第 8 回	在宅看護における事例から今後の対策について（棚橋）	第 9 回	高齢者ケアと制度について（大澤）	第 10 回	認知症施策の方向性とオレンジプランについて（大澤）	第 11 回	高齢者の人権擁護（認知症高齢者や高齢者虐待等）（大澤）	第 12 回	高齢者を取り巻く環境について、事例をとおして学習（大澤）	第 13～15 回	社会資源による高齢者サポート等について実践者から現状と課題について学ぶ（梨木）
第 1 回	在宅看護の状況（棚橋）																												
第 2 回	在宅療養者を支える制度の理解（棚橋）																												
第 3 回	訪問看護ステーションの現状と課題（棚橋）																												
第 4 回	在宅看護における家族支援（棚橋）																												
第 5 回	訪問看護ステーションについて①人材育成（棚橋）																												
第 6 回	訪問看護ステーションについて②経営・管理（棚橋）																												
第 7 回	訪問看護ステーションについて③地域連携（棚橋）																												
第 8 回	在宅看護における事例から今後の対策について（棚橋）																												
第 9 回	高齢者ケアと制度について（大澤）																												
第 10 回	認知症施策の方向性とオレンジプランについて（大澤）																												
第 11 回	高齢者の人権擁護（認知症高齢者や高齢者虐待等）（大澤）																												
第 12 回	高齢者を取り巻く環境について、事例をとおして学習（大澤）																												
第 13～15 回	社会資源による高齢者サポート等について実践者から現状と課題について学ぶ（梨木）																												
評価方法	授業への参加度（40％） レポート課題（60％）																												
参考書 テキスト等	日本在宅ケア学会誌 廣谷速人著：論文のレトリック等 その他適宜指示する																												
授業外学習の内容	自己の課題研究の準備のための講義になります。事前に老年・在宅看護におけるトピックス等を学習して取り組んでほしい。																												

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目		
科目名	老年・在宅看護学演習Ⅰ	英文名	SeminarⅠ：Gerontological and Home Care Nursing
担当者	棚橋 さつき、大澤 幸枝		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	高齢者患者と家族に特有な看護実践方法その評価を探求し、高度看護専門職としての課題を明確にする。また、質の高い訪問看護サービスを提供するための看護実践方法について、事例や学会報告などから最新情報を学び、施設における現状や問題を明確化する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年・在宅看護領域に関する理論構築および実践的な技術開発のための研究手法を習得する。 2. 実際に行われている老年看護や在宅看護実践方法について学ぶ。 	
当該科目の内容・計画	<p>第1回 認知症ケアについて（大澤）</p> <p>第2回 院内ディケアから老年看護について検討する（大澤）</p> <p>第3回 在宅看護の質の管理①（棚橋）</p> <p>第4回 在宅看護分野におけるサービスの質評価・改善①（棚橋）</p> <p>第5回 在宅看護分野におけるサービスの質評価・改善②（棚橋）</p> <p>第6回 在宅看護と行政研究（棚橋）</p> <p>第7回 在宅看護の質の管理②：人材育成（棚橋）</p> <p>第8～14回 老年・在宅看護における最新の看護実践方法について事例や研究発表から学び課題を明確にする。（棚橋・大澤）</p> <p>第15回 老年・在宅看護の観点から研究の課題と方向性を見出す。（棚橋・大澤）</p>		
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度やプレゼンテーション内容から総合的に判断する。総合討論等の成果（60％） 授業参加度・貢献度（40％）		
参考書テキスト等	アイボ・エイブラハム：ベストプラクティスのための高齢者ケアプロトコル、医学書院 堀内園子：認知症看護入門、ライフサポート社 岡田晋吾編：地域連携/バスの作成術・活用術 患者状態適応型バス（事例集2007年度版、電子コンテンツ2008年度版） その他適宜指示する		
授業外学習の内容	老年看護に関するトピックスなどを新なじめ時間外に学習して望んでほしい。在宅看護の質向上のための方法に関する情報収集を事前に行って参加してほしい。		

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目		
科目名	老年・在宅看護学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ：Gerontological and Home Care Nursing
担当者	棚橋 さつき		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	自己の抱える問題や課題を事例検討や先駆的活動での学習をとおして高度訪問看護実践に必要な能力における知識を獲得する。また、文献学習にて、論文読解能力を高めた多様な研究方法について理解し、研究計画の作成の方法や実践的な研究方法の基礎的知識と応用力を身につける。老年・在宅看護に関する研究の現状を理解し、プログラム作成の基本を見出す。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年・在宅看護関連の課題解決方法を、文献学習や研究手法等から理論構築及び実践的な技術開発のための研究手法を学ぶ。 2. 研究課題の基本形の作成ができる。 	
当該科目の内容・計画	<p>第1～10回 国内外の文献をクリティークし、自己の研究課題についてテーマを抽出する。</p> <p>第11～15回 自己の関心、研究内容となる文献検索を行い、研究計画書の構想を作成する。</p>		
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や資料準備、プレゼンテーション内容から総合的に判断する。		
参考書テキスト等	日本在宅ケア学会誌 廣谷速人著：論文のレトリック等 その他適宜指示する		
授業外学習の内容	自己の課題を明確にして、事前に老年・在宅看護におけるトピックス等を学習して取り組んでほしい。		

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目		
科目名	老年・在宅看護学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ：Gerontological and Home Care Nursing
担当者	棚橋 さつき		
時期・単位	2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅱで取り上げた研究テーマをもとに、研究計画を明らかにし、研究計画にあった研究方法を選択して研究計画を作成する。	
	到達目標	研究課題をもとに研究目的、方法について明確化し研究計画書を作成する。	
当該科目の内容・計画	<p>4月 研究計画書を作成し、修正等を行い倫理審査にかける。</p> <p>6～7月 データ収集に合わせて文献検討を行い研究計画を実施できるように準備する。</p>		
評価方法	研究計画書の妥当性や研究計画の取り組み方、文献検討に関するレポート等で評価する。研究計画書内容（60％）、文献検討に関するレポート（40％）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	特別研究で用いる研究方法や指標が確定できるように、研究計画の実施体制を準備しておくこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目			
科目名	看護管理学特論Ⅱ	英文名	Advanced Nursing Administration Settings II	
担当者	池田 優子、野本 悦子			
時期・単位	1年次 後期 選択2単位			
当該科目の目的	講義目的	チーム医療の中核を担う看護職のマネジメント能力育成をめぐる現状について、病院組織の構造的側面・人間的側面の両面から分析し、課題を明確化し、それぞれが抱える課題と解決に向けた方法論について学ぶ。更にトップマネジメントをめぐる課題と病院経営への参画の在り方や人材育成のための教育システムの構築について教授する。		
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織管理におけるグループマネジメントの課題について理解できる。 2. キャリア開発に関する課題を明確化し、人材育成プログラムについて検討できる。 3. 病院経営への参画と目標管理のあり方について理解できる。 4. 看護の質向上に向けた教育システム作りと看護の専門性の構築について検討できる。 		
当該科目の内容・計画	第 1 回	組織の構造的側面と人間的側面の構築に関する課題を明確化する。(池田)		
	第 2 回	組織管理におけるグループマネジメントに関する課題を記述する。(池田)		
当該科目の内容・計画	第 3 ～ 4 回	体験の中で見出した課題について、グループダイナミクス理論、行動変容理論等を用いて分析する。(池田)		
	第 5 回	人材育成とキャリア開発(池田)		
	第 6 回	動機づけ面接と目標にむけた自己管理(池田)		
	第 7 回	コーチングの理論的背景と応用(池田)		
	第 8 回	キャリア発達の各段階に応じた教育プログラムの構築(池田)		
	第 9 回	新人・中堅看護師のキャリア発達(池田)		
	第 10 回	看護管理者のキャリア発達(池田)		
	第 11 回	トップマネジメントをめぐる課題(野本)		
	第 12 回	経営参画と目標管理(野本)		
	第 13 回	人材育成・教育システム(野本)		
	第 14 回	看護専門外来の構築(野本)		
	第 15 回	まとめ(池田)		
	評価方法	授業参加度(50%) レポート(50%)		
	参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> 1. Edger,H.Schein,Career Dynamics: 二村俊子・三善勝代訳、キャリア・ダイナミクス、白桃書房 2. Richard,S.Lazarus&Susan Folkman,Stress,Appraisal, and Coping: 本明寛 春木豊 小田正美監訳、ストレスの心理学 認知的評価と対処の研究、実務教育出版 		
	授業外学習の内容	自己の現場における経験の中から管理にかかわる課題を明確化し、レポートにして発表する。それぞれの課題について看護管理を巡る文献を熟読し、照らし合わせながら討議に積極的に参加してほしい。		

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目		
科目名	看護管理学演習Ⅰ	英文名	Seminar I : Advanced Nursing Administration
担当者	池田 優子		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護組織活動の効果的推進に必要なグループマネジメントの手法について、グループダイナミック理論や動機づけ理論をとおして理解するとともに、キャリア開発のための人材育成プログラムについて検討する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織管理におけるグループマネジメントの課題について理解できる。 2. キャリア開発に関する課題を明確化し、人材育成プログラムについて検討できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回	組織の構造的側面と人間的側面の構築に関する課題を明確化する。	
	第 2 回	組織管理におけるグループマネジメントに関する課題を記述する。	
	第 3 ～ 5 回	体験の中で見出した課題について、グループダイナミクス理論、動機づけ理論、行動変容理論等を用いて分析する。	
	第 5 ～ 8 回	人材育成とキャリア開発に関する課題を明確化し、面接技法、コーチング技法を学習する。	
	第 9 ～ 11 回	マネジメントに関する国内外の文献を検索し、自己の課題を明確化する。	
	第 12 ～ 14 回	人材育成に関する事例検討の中から解決すべき課題を明確化する。	
	第 15 回	事例のまとめと発表を行い、課題と方向性を見出す。	
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や演習素材の準備、プレゼンテーション内容から総合的に判断する。演習参加度(30%) レポート(70%)		
参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 金井壽宏・高橋潔: 組織行動の考え方、東洋経済新報社 2. Edger H.Schein: Career Anchors、金井壽宏訳、キャリアアンカー、白桃書房 3. Raymond G.Miltenberger: Behavior Modification、團山茂樹他訳、行動変容法入門、二瓶社 4. 宗像恒次: 最新 行動科学からみた健康と病気、メジカルフレンド社 5. 坂野雄二・前田基成: セルフエフィカシーの臨床心理学、北大路書房 		
授業外学習の内容	グループマネジメントの手法について、事前に文献学習をしておくこと。また、事例検討の項目においては、事前に文献等での準備をして授業に望むこと。		

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目		
科目名	看護管理学演習Ⅱ	英文名	SeminarⅡ : Advanced Nursing Administration
担当者	池田 優子		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	演習Ⅰで明確にした、グループマネジメントやキャリアデベロップメントに関する課題、文献検索と討議の中から自己の関心領域を明確化し、研究計画書の概要を明らかにできる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理に関連する文献検討を内外の文献から検索し課題を明らかにできる。 2. 自己の関心領域を明確化し、研究計画書のアウトラインを作成できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 10 回	国内外のマネジメントやキャリアデベロップメントに関する文献の検討を行い、自己の経験と照らし合わせながら、解決すべき課題やテーマを抽出する。	
	第 11 ～ 15 回	自己の関心領域に関する文献検索を行い、研究計画書のアウトラインを作成する。	
評価方法	授業への主体的参加を重視し、学習態度や演習素材の準備、プレゼンテーション内容から総合的に判断する。		
参考書テキスト等	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遠藤辰雄編：アイデンティティの心理学、ナカニシヤ出版 2. 中谷基之編：学ぶ意欲を育てる人間関係づくり、動機づけの心理学、金子書房 3. Jerrold S.Greenberg：Comprehensive Stress Management、服部祥子 山田富美雄監訳、包括的ストレスマネジメント、医学書院 		
授業外学習の内容	関心領域に関する文献検索について、研究概要を整理し、プレゼンテーションできるよう準備すること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目		
科目名	看護管理学演習Ⅲ	英文名	SeminarⅢ : Advanced Nursing Administration
担当者	池田 優子		
時期・単位	2年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	看護管理学演習Ⅱで絞り上げたテーマをもとに、研究目的を明らかにし、研究目的にたらし合わせた妥当な研究方法を選択し、研究計画書を作成する。作成した研究計画書の妥当性を高めるためのプレテストを実施し、計画書の修正を行い、研究倫理審査の承認を得られるよう指導する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究テーマをもとに研究目的、方法について明確化し研究計画書を作成する。 2. プレテストを実施し、修正をするとともに、妥当性のある計画書を作成する。 	
当該科目の内容・計画	4 月	研究計画書を作成し、プレテストを実施する。	
		修正を行い、倫理審査にかける。	
	6 ～ 7 月	データ収集に合わせて、文献検索を行い、比較検討ができるよう準備する。	
評価方法	研究計画書の妥当性や、研究の取り組みの態度、文献検討に関するレポート等で評価する。 研究計画書の内容（60％） 文献検討に関するレポート（40％）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	特別研究で用いる介入方法や評価指標を確定できるよう、フィールドへの依頼を進め、プレテストの実施とともに、研究計画の実施体制を整えること。		

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目		
科目名	ケアシステム開発科学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Care System Science
担当者	棚橋 さつき		
時期・単位	2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	老年・在宅看護学演習Ⅲで修正した研究計画書をフィールドで実施するため、計画書を作成し発表を行う。研究課題を明確にし、適切なデザイン、研究方法を選択して独自の価値を有する論文作成ができることを目的とする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年・在宅看護学演習Ⅲで修正した研究課題をフィールドで実施するため計画書を作成し発表を行う。 2. 先行文献をクリティークし、オリジナリティのある研究課題を明確にできる。 3. 研究課題にあった研究方法を選択し、自立して研究を実施できる 	
当該科目の内容・計画	<p>4～6月 研究テーマ、研究目的、デザイン等について明確にし計画書を作成</p> <p>7～9月 研究計画書に基づきデータ収集 調査結果の集計・科学的分析</p> <p>10月 研究の中間発表</p> <p>10～1月 修士論文の作成</p>		
評価方法	特別研究論文（100％）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	各自でデータ整理や分析方法について、事前に学習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。また、論文の作成にあたり、倫理審査等の承認を得なければ実施できない。		

科目区分	専門科目 看護学分野 ケアシステム開発科学領域専門科目		
科目名	ケアシステム開発科学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Care System Science
担当者	池田 優子		
時期・単位	2年次 通年 選択8単位		
当該科目の目的	講義目的	看護管理に関する関心領域について作成した研究計画書に基づき、データ収集を行い、得られた結果を、既存の研究と照らし合わせながら考察し、論文としてまとめ、提出する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究計画書に基づき、倫理審査の承認を得る。 2. 研究フィールドを確保し、データの収集を行い、得られた結果について考察し、論文として仕上げる。 	
当該科目の内容・計画	<p>4～5月 研究計画書について 研究テーマ、研究目的、デザイン、データ収集方法等について明確にし、計画書を作成する。（計画書審査、研究倫理委員会の承認を得る）</p> <p>7～9月 研究計画書に基づいて研究を実施する</p> <p>10月 研究中間発表</p> <p>10～1月 修士論文の作成 データ分析を行い、自己の課題解決に向けて作成した看護介入プログラムの効果等について論文を作成し提出する。</p>		
評価方法	特別研究論文（100％）		
参考書テキスト等	特に指定しない。		
授業外学習の内容	医療機関において研究倫理審査が必要な場合には、研究に支障がないように承認を得る。指定された期日までに修士論文を提出しなければ単位取得はできない。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	看護学研究法	英文名	Advanced Research Methods in Nursing Science
担当者	縄 秀志、吉田 久美子、石田 順子、倉林 しのぶ、砂賀 道子、櫻井 美和、武田 貴美子		
時期・単位	1年次 前期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	<p><1回～15回：量的研究法> 保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および介入研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を学ぶ。</p> <p><16回～30回：質的研究法> 保健医療における質的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。代表的な分析方法（事例研究、内容分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、現象学）について、研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点およびデータの種類、真実性を高めるためのデータ収集・データ分析方法の特徴について学ぶ。</p>	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療における量的研究と質的研究の意義・役割が理解できる。 2. 人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を理解できる。 3. 各研究方法の特徴およびプロセスを理解できる。 	
当該科目の内容・計画	<p><量的研究法></p> <p>第 1 回 保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割、研究倫理（縄）</p> <p>第 2 回 文献クリティーク（縄）</p> <p>第 3 回 実験、準実験研究のプロセス（縄）</p> <p>第 4 回 実験、準実験研究における妥当性・信頼性（縄）</p> <p>第 5 回 学生による実験、準実験研究の文献クリティークのプレゼンテーションとディスカッション（縄）</p> <p>第 6 回 調査研究のプロセス（石田）</p> <p>第 7 回 調査研究における妥当性・信頼性（石田）</p> <p>第 8 回 学生による調査研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（石田）</p> <p>第 9 回 尺度開発のプロセス（吉田）</p> <p>第 10 回 尺度開発における妥当性・信頼性（吉田）</p> <p>第 11 回 学生による尺度開発の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（吉田）</p> <p>第 12 回 介入評価研究のプロセス（縄）</p> <p>第 13 回 介入評価研究の妥当性・信頼性（縄）</p> <p>第 14 回 学生による介入研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（縄）</p> <p>第 15 回 量的研究法のまとめ（縄、石田、吉田）</p> <p><質的研究法></p> <p>第 16 回 保健医療における質的研究の意義・役割、研究倫理（櫻井）</p> <p>第 17 回 質的研究のプロセス（櫻井）</p> <p>第 18 回 質的研究における真実性を高める対象選定・データ収集とは（櫻井）</p> <p>第 19 回 質的研究における真実性をたかめるデータ分析とは（櫻井）</p> <p>第 20 回 質的研究における真実性をたかめる結果・考察とは（櫻井）</p> <p>第 21 回 内容分析とは（櫻井）</p> <p>第 22 回 内容分析の研究プロセス（倉林）</p> <p>第 23 回 内容分析の研究プロセス（倉林）</p> <p>第 24 回 事例研究とは（武田）</p> <p>第 25 回 事例研究のプロセス（武田）</p> <p>第 26 回 グラウンデッド・セオリー・アプローチと修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（砂賀）</p> <p>第 27 回 グラウンデッド・セオリー・アプローチ演習（砂賀）</p> <p>第 28 回 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの文献クリティーク（砂賀）</p> <p>第 29 回 学生による質的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）①（櫻井、倉林、武田、砂賀）</p> <p>第 30 回 学生による質的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）②（櫻井、倉林、武田、砂賀）</p>		
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	<p>黒田裕子他監訳（2007）：バーンズ&グループ看護研究入門-実施・評価・活用-、エルゼビア・ジャパン</p> <p>Burns & Grove（2009）：The practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence（6th Ed）, ELSEIER SAUNDERS.</p> <p>刘馬栄輝（2010）：医療系研究論文の読み方・まとめ方、東京図書</p> <p>刘馬栄輝、石田水里（2013）：医療系データのとり方・まとめ方、東京図書</p> <p>野口美和子監訳（2006）：ナースのための質的研究入門、医学書院</p> <p>菅間真美（2007）：質的研究実践ノート、医学書院</p> <p>オホクレイグヒル滋子：質的研究方法ゼミナール グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ 医学書院</p> <p>木下康之：M-GTA グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い 弘文堂</p> <p>木下康之：ライブ講義 M-GTA 弘文堂</p>		
授業外学習の内容	<p>予習を必ず行い、疑問を明確にして授業に臨むこと。文献検索の方法を熟知していること。</p> <p>自分の研究テーマに関する各研究法の文献のクリティークおよびミニ文献レビューのレポートを提出する。</p>		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅰ	英文名	Advanced Theory of Midwifery Ⅰ
担当者	今関 節子、大石 時子、竹内 正人		
時期・単位	1年次 前期 必修1単位		
当該科目の目的	講義目的	性と生殖のケアにかかわる専門家としての学び方、進み方、保健、社会・文化的役割期待を自覚し、専門家としての倫理に基づき助産学独自の領域を開発し、構築していく方途を探索し、明らかにすることを目的とする。	
	到達目標	助産師資格取得領域：①助産学独自の対象へのアプローチ、ケア特質について、EBPMのルーツ、実践開発領域学生の経験より学び、今後の助産師としての目指す道を文化的、歴史的背景も含めて計画し、説明出来る。	
当該科目の内容・計画	第 1 回 種の存続への過程で女性があみだした未代性 [※] のケア討論（今関） 第 2 回 EBPMのルーツと産科実践への導入（今関） 第 3 回 ポートフォリオ手法の活用と各自のポートフォリオ（今関） 第 4 回 助産学独自の観察視点と意義（今関） 第 5 回 女性にとって望ましい出産環境（総論）（竹内） 第 6 回 女性にとって望ましい出産環境（事例の紹介と考察）（竹内） 第 7 回 日本における開業・施設内助産師有機的連携と地域貢献戦略（今関） 第 8 回 産科・助産をめぐるトピックスと助産師の挑戦（ICMより）（大石） 注）男性の一代性（森崎和江）に対して女性と次世代における未来に対して用いた		
評価方法	レポート：将来の目指す方向と本課程における自己の学習計画100%		
参考書テキスト等	テキスト：①成田伸：助産師基礎教育テキスト1 ②助産師業務要覧第2版（基礎編、実践編）、看護協会出版会 参考図書：①鈴木敏江：ポートフォリオ評価とコーチング手法 医学書院 ②木村尚子：出産と生殖をめぐる攻防、大月書店 ③ジェームズC.コリンズ：ビジョナリーカンパニー、日経BP社 ④その他資料で提供		
授業外学習の内容	1. 種の存続にかかわるあらゆる動植物の中から各自一つの種を選んで、その過程を映像、書物、体験・観察、物語のどこからでもよみが記述し、それを通して種の存続とその努力にかかわる各自の概念をまとめて授業終了時提出する。 2. 各自のポートフォリオを作成し、課程を修了まで継続していく。 3. 群馬県の周産期医療体制整備計画について調べ、第7回の授業で戦略として実際の有機的な位置づけに提案していただく。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅱ（ウィメンズヘルス）	英文名	Advanced Theory of Midwifery Ⅱ (Women's Health)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、蓮尾 豊		
時期・単位	1年次 後期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。	
	到達目標	1. 思春期男女に対する基本的姿勢と、心身の理解の基に相談や、適切な対応ができる。 2. 男女のセクシュアリティの特性を理解し、健全な性の発達、受胎調節、性暴力や妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明出来る。 3. 性感染症、月経に対する理解と課題、中高年の健康問題、問題対応について説明出来る。 4. グループワークにおいては、実践開発領域の学生はリーダーシップを発揮し、助産師資格取得領域の学生は、フォローアップを発揮できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 回 思春期女性の支援（ビルを含む）（大石） 第 2 回 思春期女性の支援グループワーク（大石） 第 3 回 女性とパートナーに対する支援（大石） 第 4 回 女性とパートナーに対する支援：事例展開とグループワーク（大石） 第 5 回 女性とパートナーに対する支援：事例展開とグループワーク（大石） 第 6 回 不妊の悩みを持つ女性の現状と事例討論（久保田） 第 7 回 不妊女性を取り巻く家族・社会と事例の討論（久保田） 第 8 回 不妊の悩みを持つ女性に対する支援グループワーク（久保田） 第 9 回 不妊女性と家族に対する支援と社会に対する啓蒙まとめ発表（久保田） 第 10 回 中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴（大石） 第 11 回 中高年女性に対する支援：グループワークとまとめ（大石） 第 12 回 性感染症予防と支援（子宮頸がん予防とワクチン啓蒙）（大石） 第 13 回 性感染症予防と支援グループワークとまとめ（大石） 第 14 回 女性と月経、月経障害について（蓮尾） 第 15 回 月経障害に対する支援と教育グループワーク（蓮尾）		
評価方法	筆記試験（70%） レポート（30%）		
参考書テキスト等	テキスト：①吉沢豊予子：助産師基礎教育テキスト2、看護協会出版会 ②村本淳子他編：ウィメンズヘルス概論女性の健康と看護、ヌーベルヒロカワ 参考書：③ウィメンズヘルス事典-女性のからだところろガイド、日本母性衛生学会		
授業外学習の内容	受胎調節実施指導員としての内容と自助グループについての発表会を行う。企画書作成は助産師活動の参考になるような内容として作成すること。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅲ（助産管理）	英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅢ (Midwifery Management)
担当者	寺田 眞廣、村上 睦子		
時期・単位	1年次 後期 必修1単位		
指定規則	別表2：「助産管理」		
当該科目の目的	講義目的	助産業務、管理、および病産院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産業務に関する法律を理解し説明できる。 2. 助産管理の方法を理解し、説明できる。 3. 安全管理のあり方を理解し、説明できる。 4. 自己の開設する助産所または勤務する周産母子センターを想定し、助産管理の一側面における姿勢を説明できる。（各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理） 	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 2 回 助産業務・管理の概念（村上） 第 3 ～ 5 回 助産業務管理過程の方法と実際（寺田） 第 6 ～ 7 回 助産業務に関連する法規（法的責務）（寺田） 第 8 ～ 9 回 助産業務に関連する法規（法的施策）（寺田） 第 10 回 助産業務管理の実際（病産院）（村上） 第 11 回 助産業務管理の実際（含助産所等の連携）（村上） 第 12 ～ 13 回 周産期における安全管理・危機管理（寺田） 第 14 回 助産師と災害対策（寺田） 第 15 回 助産師のキャリア形成、後輩助産師の育成（寺田）		
評価方法	筆記試験（50％） レポート「私の想定する施設と助産管理の姿勢」（50％）		
参考書 テキスト等	テキスト：①我部山・他：助産学講座10、医学書院 ②助産業務要覧、看護協会出版会 ③成田：助産師基礎教育テキスト3、看護協会出版会 参考書：看護六法（平成25年版）、新日本法規		
授業外学習の内容	各授業内で示すので、次回までに学習して授業に臨むこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅳ（開業・院内助産）	英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅣ (Independent Practice of Midwifery)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、西山 信之、宮下 美代子、金 寿子、林 啓子		
時期・単位	1年次 後期 必修1単位		
指定規則	別表2：「助産管理」		
当該科目の目的	講義目的	地域において助産所を開業したり、院内助産を設置、運営するのに必要な企業家としてのマインドと経営的視点を持ちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営や、経営戦略を理解し説明ができる。 2. マネジメントの一環としての多職種協同を理解し、説明できる。 3. リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。 4. 行政への働きかけ（産後母子訪問システム等の実績等）、NPO法人の取得・運営を理解し、発表会にも出席し、説明できる。 5. 助産に関わる各種ガイドラインを理解し説明できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 病院における経営と経営戦略について（西山） 第 2 回 病院における経営戦略の実際（西山） 第 3 回 助産所における経営と経営戦略（宮下） 第 4 回 助産所における経営戦略の実際（宮下） 第 5 回 助産師の自律と多職種協働（内外）のあり方（宮下） 第 6 回 助産師の自律と人間関係の調整（宮下） 第 7 回 医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開（宮下） 第 8 回 NPO法人の取得（大石） 第 9 回 医療事故防止、感染予防対策、災害対策等（久保田） 第 10 回 院内助産システムと助産師の自律について（林） 第 11 回 助産師の自律（ハースセンターの設立経験から）（林） 第 12 回 行政との連携（産後母子訪問システムの実績等）（金） 第 13 回 母子訪問の実際と留意点（金） 第 14 回 周産期に関連する様々なガイドラインー産婦人科診療ガイドライン2014（大石） 第 15 回 助産業務ガイドライン2014（大石）		
評価方法	グループワーク；フォローアップ（30％）、筆記試験（70％）		
参考書 テキスト等	ジェームズC.コリンズ：ビジョナリーカンパニー、日経BP社 その他資料で提供		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。 2. 講義中の討論で自分の意見を述べることができるよう準備しておくこと。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産における補完代替医療	英文名	Complementary and Alternative Care in Midwifery
担当者	今関 節子、山西 加織		
時期・単位	2年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフスタイルをホリスティックに観て、一人一人の状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に周産期に焦点をあててその目的、適用、実際を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたっての安全性、倫理性の確認論理が説明出来る。 2. 各種代替医療を正しく理解し、十分な習得の元で適切に実施できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 補完代替医療とリスクマネジメント（今関） 第 2 回 ヨガの基礎理論（山西） 第 3 回 ヨガの実際（山西） 第 4 回 妊産婦エクササイズの理論（今関） 第 5 回 妊産婦エクササイズの実際（今関） 第 6 回 マッサージ法（今関） 第 7 回 呼吸法（今関） 第 8 回 身体的リラクセス法（今関） 第 9 回 心理的リラクセス法（今関） 第 10 回 アロマ・ハーブに使われる精油（今関） 第 11 回 女性のライフサイクルとアロマセラピー（今関） 第 12 回 リフレクソロジーの基礎理論（今関） 第 13 回 リフレクソロジー実際（今関） 第 14 回 ツボの基礎理論（今関） 第 15 回 ツボの女性・妊産婦ケアへの適用（今関）		
評価方法	（各方法を選択して）レポート（100％）		
参考書テキスト等	参考書：①鮫島浩二：女性によく効くアロマセラピー，主婦の友社 ②松本清一・他：妊産婦体操の理論と実際，全国保健センター連合会 ③今西二郎：医療従事者のための補完・代替医療，金芳堂 ④その他その都度資料を配布する		
授業外学習の内容	一つの補完代替医療の技術を選んで、学習会・講習会・教室に自主的に参加し、学級活動等で考察を含めて披露し、自分の一つの助産技術として深めていくことに繋げる。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	女性のフィジカルアセスメント	英文名	Physical Assessment of Women
担当者	大石 時子、久保田 隆子、今関 節子、新井 基子		
時期・単位	1年次 前期 必修2単位		
指定規則	別表2：「助産診断・技術学」		
当該科目の目的	講義目的	女性に対する性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師が行うべき女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの観察項目、技法、評価について説明出来る。 2. 女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された観察・計測機器について、操作法と観察事項の評価について説明出来る。 	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 2 回 助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義（大石） 第 3 ～ 4 回 思春期女性の身体の観察法（久保田） 第 5 ～ 6 回 思春期女性の身体の観察法とアセスメントの方法（久保田） 第 7 ～ 8 回 思春期女性の身体の観察法とアセスメントの実際（久保田） 第 9 ～ 10 回 成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察法（久保田） 第 11 ～ 12 回 成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察の実際とアセスメント（久保田） 第 13 ～ 14 回 婦人科的診察法の実際（大石） 第 15 ～ 16 回 婦人科的診察・検体採取法、アセスメントの実際（大石） 第 17 ～ 18 回 超音波診断装置による基礎的操作の理論（今関） 第 19 ～ 20 回 超音波診断装置による基礎的操作と検査一般・アセスメントの実際（今関） 第 21 ～ 22 回 乳房の診察法の基礎理論（新井） 第 23 ～ 24 回 乳房の診察法とアセスメントの実際（新井） 第 25 ～ 26 回 骨盤と骨盤底の基礎的理解（大石） 第 27 ～ 28 回 出産と骨盤・骨盤底の診察とアセスメント（大石） 第 29 ～ 30 回 女性の加齢による骨盤底の診察・アセスメントとケア（大石）		
評価方法	実技試験（60％） 筆記試験（40％）		
参考書テキスト等	参考書：①大石時子・他：助産師のためのフィジカルイグザミネーション，医学書院 ②吉沢豊子：女性の健康とケア，日本看護協会出版会		
授業外学習の内容	演習が中心となる科目なので、助産診断技術の向上の為に説明ができるような知識を深めること。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	産婦人科医学診断	英文名	Gynecology Diagnosis
担当者	篠崎 博光、曾田 雅之、中村 和人		
時期・単位	1年次 前期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。 2. 婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。 3. 女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 産婦人科診療（篠崎） 第 2 回 女性性器の構造・女性の性機能（篠崎） 第 3 回 月経とその異常（篠崎） 第 4 回 婦人科検査（篠崎） 第 5 回 女性性器の疾患①（中村） 第 6 回 女性性器の疾患②（中村） 第 7 回 加齢と疾患、ホルモン療法①（曾田） 第 8 回 加齢と疾患、ホルモン療法②（曾田） 		
評価方法	授業参加度・貢献度（30%） 筆記試験（70%）		
参考書テキスト等	テキスト：①岡井 崇：標準産科婦人科学（STANDARD TEXTBOOK），医学書院		
授業外学習の内容	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	新生児学	英文名	Neonatology
担当者	丸山 憲一		
時期・単位	1年次 前期 必修1単位		
指定規則	別表2：「基礎助産学」		
当該科目の目的	講義目的	新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を習得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。 2. 新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3. ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。 4. 緊急時に対応できる知識を理解できる。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 新生児学総論、ハイリスク新生児の評価 第 2 回 新生児診断学 第 3 回 新生児の生理、発達 第 4 回 新生児の養護と管理（ハイリスク新生児、NICU入院児を含む） 第 5 回 体温調節と保温 第 6 回 栄養の基礎と診療 第 7 回 水-電解質バランス 第 8 回 内分泌系・代謝系の異常 第 9 回 内分泌系・代謝系の異常と管理 第 10 回 呼吸器系の生理と診療 第 11 回 循環器系の基礎と診療 第 12 回 黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療 第 13 回 免疫系と感染 第 14 回 中枢神経系の障害と診療 第 15 回 先天異常と遺伝、主要疾患の病態と生理 		
評価方法	筆記試験（100%）		
参考書テキスト等	テキスト：①仁志田博司：新生児学入門(第4版)，医学書院		
授業外学習の内容	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	周産期ハイリスク論Ⅰ	英文名	High risk of Perinatal Complications I
担当者	伊藤 理廣、竹中 恒久		
時期・単位	1年次 後期 必修1単位		
指定規則	別表2:「基礎助産学」		
当該科目の目的	講義目的	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べることができる。 2. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3. 緊急時に対応できる知識を学ぶ。 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 回 胎児の発生と出生前診断（伊藤）</p> <p>第 2 回 不妊症（伊藤）</p> <p>第 3 回 不育症（伊藤）</p> <p>第 4 回 妊娠期の異常と診断-子宮外妊娠、流早産、人工妊娠中絶、死産、PIHと子癇、GDM（竹中）</p> <p>第 5 回 前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離（竹中）</p> <p>第 6 回 合併症：甲状腺機能異常、高血圧、糖尿病（竹中）</p> <p>第 7 回 合併症：子宮筋腫、心疾患、感染症（竹中）</p> <p>第 8 回 胎児の異常：多胎、IUGR（竹中）</p> <p>第 9 回 分娩期の異常と診断、娩出力：陣痛の異常と分娩誘導、クリステル胎児圧出法、VBAC（竹中）</p> <p>第 10 回 胎児：胎児位置異常(骨盤位分娩)回旋異常、胎児機能不全（竹中）</p> <p>第 11 回 産道：会陰裂傷・切開、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術（竹中）</p> <p>第 12 回 出血：弛緩出血、血栓症、産科ショック、子宮内反、産褥熱（竹中）</p> <p>第 13 回 妊産褥婦と薬物妊娠、分娩、授乳に影響する薬剤（竹中）</p> <p>第 14 回 妊産褥婦と薬物産科麻酔（竹中）</p> <p>第 15 回 母子免疫（竹中）</p>		
評価方法	筆記試験（100%）		
参考書 テキスト等	テキスト①荒木勲：最新産科学（異常編）、文光堂 ②岡井崇・他編：標準産科婦人科学（第4版）、医学書院		
授業外学習の内容	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	周産期ハイリスク論Ⅱ	英文名	High risk of Perinatal Complications II
担当者	高木 剛、伊藤 雄二、丸山 憲一		
時期・単位	1年次 後期 必修2単位		
指定規則	別表2:「基礎助産学」		
当該科目の目的	講義目的	周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した医療補助技術として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。	
	到達目標	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 ～ 2 回 胎児の評価と診断（超音波診断）理論基本操作（高木）</p> <p>第 3 ～ 4 回 胎児の評価と診断（超音波診断）実技（高木）</p> <p>第 5 ～ 6 回 分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技（高木）</p> <p>第 7 ～ 8 回 産道の異常：会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論（高木）</p> <p>第 9 ～ 10 回 産道の異常：会陰縫合術基本の実際（高木）</p> <p>第 11 ～ 12 回 産道の異常：会陰縫合術の実際（高木）</p> <p>第 13 ～ 14 回 産道の異常：会陰縫合術学生相互評価討論（高木）</p> <p>第 15 ～ 16 回 分娩時の出血とその対処（胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血）（伊藤）</p> <p>第 17 ～ 18 回 産科救急（産科ショック、薬物療法）（伊藤）</p> <p>第 19 ～ 20 回 産科救急（産科ショック、帝王切開術を含む）（伊藤）</p> <p>第 21 ～ 22 回 娩出力の異常：吸引・鉗子分娩とその介助（伊藤）</p> <p>第 23 回 娩出力の異常：骨盤位分娩とその介助（伊藤）</p> <p>第 24 ～ 25 回 新生児蘇生法の基礎理論（丸山）</p> <p>第 26 ～ 27 回 新生児蘇生法の実技（丸山）</p> <p>第 28 ～ 29 回 新生児蘇生法の実技演習（丸山）</p> <p>第 30 回 新生児蘇生法相互評価討論（丸山）</p>		
評価方法	筆記試験（60%） 演習レポート（40%）		
参考書 テキスト等	テキスト：①荒木勲：最新産科学（異常編）、文光堂 ②岡井崇・綾部琢哉：標準産科婦人科学（第4版）、医学書院 参考書：①馬場一憲：基礎からわかる産婦人科超音波診断、東京医学社 ②藤森敬：胎児心拍数モニタリング講座（第2版）、メディカ出版 ③進純郎・堀口成子：正常分娩の助産術-トラブルへの対応と会陰裂傷縫合（ブラッシュアップ助産学）、医学書院 ④田村正徳：日本版救急蘇生ガイドライン2010に基づく新生児蘇生法テキスト（第2版）、メジカルビュー社 ⑤村越毅・加藤智子：産科の必須手技ベスト58-本当に知りたかった技とコツ、メディカ出版		
授業外学習の内容	胎児超音波検査と胎児心拍数モニタリングで用いられる基礎的な用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	地域母子保健実習	英文名	Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community
担当者	久保田 隆子、大石 時子		
時期・単位	2年次 前期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実際を見学、演習等様々な形で学び、より有効で新たな具体的転換の仕組みを構築し、実践活動能力の基礎を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断の基本を理解し、説明ができる。 2. 地域のアセスメントをし、地域の課題を見いだせる。 3. 地域で実践されている母子への健康診査の方法や相談事業等を理解する。 4. 事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、実施できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 日 ・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス</p> <p>第 2 日 ・行政や地域で行われている女性の健康講座等への参画 ・行政や地域で行われている学級等への参画</p> <p>第 3 日 ・行政で行われている妊産婦、新生児の健康診査や相談への参画 ・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップへの参画</p> <p>第 4 日 ・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の訪問指導への参画</p> <p>第 5 日 ・グループワーク：実際のクラスの企画から評価まで 学内演習、まとめ</p>		
評価方法	レポート（50%） 演習（50%）		
参考書テキスト等	参考書：①群馬県保健要覧25年度版、群馬県保健予防課		
授業外学習の内容	事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。 【備考】 1週間(5日間)＝45時間		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	母子保健政策論	英文名	Maternal and Child Health Policy
担当者	大石 時子、今関 節子、山崎 圭子、依田 裕子		
時期・単位	1年次 後期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	政策の基礎的理論に基づいて、次世代の家族の健全な発展を目指した母子保健を推進していくための方策を学ぶ。実践的事例を通して方策の手法、維持、推進の過程を学ぶ。その上で、新たな課題を探索し、それに対する企画と実践につなげる政策を検討する。さらに、母子保健の課題解決のための助産師のリーダーシップのあり方を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の母子保健の現状と動向について説明できる。 2. 母子保健行政の仕組みや制度、施策に関する知識に基づき課題を説明できる。 3. 母子保健のニーズ把握、及びサービス提供に必要な関係機関や関係職種との連携・調整・協働について課題を含めて説明できる。 4. 母子保健を推進していくための助産師の役割や課題を説明できる。 5. 母子保健を推進していくための助産師のリーダーシップのあり方を説明できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 回 母子保健施策の歴史と変遷 近代まで（今関）</p> <p>第 2 回 母子保健施策の歴史と変遷 現代（今関）</p> <p>第 3 回 母子保健の概念、周産期トピックス（大石）</p> <p>第 4 回 出産の医療化とその功罪我が国の動向（大石）</p> <p>第 5 回 出産の医療化とその功罪、諸外国の動向（大石）</p> <p>第 6 回 母子保健の現状と動向、制度と施策（山崎）</p> <p>第 7 回 地域母子保健計画と事業への参画（山崎）</p> <p>第 8 回 政策決定への参画（依田）</p>		
評価方法	レポート（100%）		
参考書テキスト等	参考書：①大林道子：助産師の戦後、勁草書房 ②戸田律子訳：WHOの59カ条お産のケア実践ガイド、農文協 ③松岡悦子他編：世界の出産、勉誠出版 ④中山まき子：身体をめぐる政策と個人、勁草書房		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。 2. 講義中の討論において、自分の意見を述べるができるよう準備しておくこと。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	母子保健政策演習	英文名	Advanced Practice of Maternal and Child Health Policy
担当者	大石 時子、久保田 隆子		
時期・単位	2年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	母子保健を推進するために母子保健のあり方を俯瞰し、政策の立案を行う国や地方議員、政策を施行する国や地方の行政機関、専門職団体などの具体的な活動について学ぶ。母子保健の現在の課題を見だし、解決に向けた対策の立案と助産実践ができる能力を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政策立案や法律の執行する立場の活動方法を理解し、説明できる。 2. MFICU, NICU, GCUの理念を基に、周産期搬送コーディネートの役割を説明できる。 3. 専門職団体の活動のあり方、社会への責任、サービス提供のための質の向上のための方策に基づき、説明できる。 4. 政策を変えていく方法を理解し、自分なりの解決方策を企画し発表できる。 	
当該科目の内容・計画	事前準備	インターンシップに向けての情報収集、目的設定、先方との情報交換 自己のインターンシップに向けての実施企画と相談・先方との交渉	
	第 1 ～ 3 日	厚生労働省、都道府県や市町村行政、国会議員、地方議員専門職団体、周産期搬送コーディネートの現場等でのインターンシップオリエンテーション	
	第 4 日	インターンシップの実際 (1日9時間) インターンシップで学んだことのグループ討議とまとめ、発表 (3時間)	
評価方法	グループワーク・発表 (40%) 筆記試験 (60%)		
参考書テキスト等	①秋吉貴雄・他：公共政策学の基礎、有斐閣ブックス ②小熊英二：社会を変えるには、講談社現代新書		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分が興味のある場はどこなのか、事前によく考えておくこと。 2. インターンシップに選んだ先方との交渉など、事務的な作業も積極的に行うこと。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 基礎助産学		
科目名	助産学概論	英文名	Introduction to Midwifery
担当者	大石 時子、今関 節子、寺田 眞廣		
時期・単位	1年次 前期 必修2単位		
指定規則	別表2：「基礎助産学」		
当該科目の目的	講義目的	助産とは何かについて、助産の本質、意義、歴史、対象について理解し、専門職としての助産師の業務・責務・役割を認識して、深められる。また、国際的視点から見た助産師の活動、倫理、教育、研究についての理解を通して、各自の中に専門職としての助産師像を持てるようにする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 独占業務である助産について本質と意義を、さまざまな根拠に基づいて説明できる。 2. 助産学を支える理論や研究について理解し、内外の研究を活用できる。 3. 助産師の業務・責務・役割について法的、社会通念的に説明できる。 4. 助産と助産師の歴史や文化について、日本独自や世界に共通したとらえ方や要因について説明出来る。 5. 各国助産師の活躍や国際助産師の業務、倫理、教育について説明できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回	助産の概念 (寺田)	
	第 2 回	助産に関係する概念 (大石)	
	第 3 ～ 4 回	助産師と法律、職制 (寺田)	
	第 5 ～ 6 回	助産師と法律、身分 (寺田)	
	第 7 ～ 8 回	助産学を構成する理論、助産学に関連する学問領域と探求方法 (今関)	
	第 9 ～ 10 回	助産学に関連する理論、研究の考え方、研究と助産師 (今関)	
	第 11 ～ 12 回	助産学独自の観察視点と意義 (今関)	
	第 13 ～ 14 回	助産学独自の観察視点と意義に関する討議と発表 (今関)	
	第 15 ～ 16 回	助産師と倫理 (生命倫理) (寺田)	
	第 17 ～ 18 回	助産師と倫理 (職業倫理) (寺田)	
	第 19 ～ 20 回	助産の歴史 (古代から江戸時代、明治・大正・昭和初期) (今関)	
	第 21 ～ 22 回	助産の歴史 (第二次大戦後) (今関)	
	第 23 ～ 24 回	助産と文化 (寺田)	
第 25 ～ 26 回	子育て文化 (寺田)		
第 27 ～ 28 回	助産師教育の変遷 (今関)		
第 29 ～ 30 回	諸外国での助産師の活動と教育 (寺田)		
評価方法	筆記試験 (80%) 出席 (20%)		
参考書テキスト等	テキスト：①加藤尚美・他：基礎助産学第1巻、助産学概論、日本助産師会出版 参考書：①大林道子：助産師の戦後、勁草書房 ②看護六法、新法規出版 ③その他講義ごとに資料を準備する		
授業外学習の内容	大野明子：医療の進歩における部分最適と全体最適、農協共済総合研究所第63号 (http://www.jkri.or.jp/) を読んで、「現代においてなぜ自然なお産」を求めるとか考察し第13～14回の討議に備える。(今関)		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産診断・技術学		
科目名	妊産期の助産診断技術学	英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Pregnancy
担当者	久保田 隆子、行田 智子		
時期・単位	1年次 前期 必修2単位		
指定規則	別表2：「助産診断・技術学」		
当該科目の目的	講義目的	妊婦と胎児の経過を理解し、その健康状態を診断し、ハイリスク徴候をアセスメントするために必要な知識を習得する。また妊産期の母性と胎児に対する支援と健康教育に必要な知識と技術を習得する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の生理的経過と異常徴候発見のためのスクリーニングを説明できる。 2. 妊婦診察のための基本的な技術を実践できる。 3. 妊婦の助産診断過程を展開し、必要な支援と健康教育を実践できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回	女性生殖器の解剖と機能（久保田）	
	第 2 回	生殖と内分泌、妊娠の生理（久保田）	
	第 3 回	妊娠の経過とスクリーニング（含 母子の栄養）（久保田）	
	第 4 回	診断の概念と助産診断の位置づけ（久保田）	
	第 5 ～ 6 回	妊娠経過と助産過程の関係について（久保田）	
	第 7 ～ 8 回	妊娠経過に即した情報収集の方法：妊婦診察のための基本技術（久保田）	
	第 9 ～ 10 回	妊婦診察のための基本技術演習（久保田）	
	第 11 ～ 12 回	妊産期助産診断のためのアセスメントの方法について（久保田）	
	第 13 ～ 14 回	助産診断における妊婦のセルフケア支援のためのアセスメント（久保田）	
	第 15 ～ 16 回	助産診断におけるハイリスク妊婦ケアのためのアセスメント（久保田）	
	第 17 ～ 18 回	妊産期ケアプランの立案について（久保田）	
	第 19 ～ 20 回	事例の展開：講義とグループワークの中で助産計画立案（久保田）	
	第 21 ～ 22 回	事例の展開：グループワークの中で展開し発表する（久保田）	
	第 23 ～ 24 回	保健指導技術（個人、集団）（行田）	
	第 25 ～ 26 回	出産準備教育のための助産技法：アクティブパス、産痛緩和（久保田）	
	第 27 ～ 28 回	出産準備教育のための助産技法：妊娠中の教育支援と乳房ケア（久保田）	
	第 29 ～ 30 回	診断に基づく健康教育について：予防的教育指導案をグループで展開（久保田）	
評価方法	筆記試験（50%） 実技・レポート（50%）		
参考書テキスト等	テキスト：①森恵美：助産基礎教育テキスト4、看護協会出版会、NANDA-1看護診断、医学書院 参考書：①プリンシプル産科婦人科学、メディカルビュー社 ②最新産科学（正常編・異常編）文光堂		
授業外学習の内容	健康教育ができることを目的としている。教材作成やプレゼンテーション能力の育成のために、知識、言動、態度等についてもトレーニングを深めること。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産診断・技術学		
科目名	分娩期の助産診断技術学Ⅰ	英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Intrapartum I
担当者	久保田 隆子		
時期・単位	1年次 前期 必修1単位		
指定規則	別表2：「助産診断・技術学」		
当該科目の目的	講義目的	産婦と胎児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識と技術を習得する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分娩の機転と分娩進行におけるアセスメントについて説明できる。 2. 分娩進行を診断するための基本的な診察技術を実践できる。 3. 産婦に対するケアプランを立案できる。 4. 正常な分娩経過を促すための支援を説明できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回	分娩期、産道の理解	
	第 2 回	分娩期、産道の理解と分娩メカニズム	
	第 3 回	分娩経過と助産過程の関係について	
	第 4 回	分娩経過に即した情報収集の方法：産婦診察のための基本技術	
	第 5 回	分娩進行の診断技術（内診、外診、CTG）の講義と実際	
	第 6 回	分娩進行の診断技術（内診、外診、CTG）の演習	
	第 7 回	分娩期助産診断のためのアセスメントの方法について講義と演習	
	第 8 回	産婦事例に対するケアプランの立案について講義と演習	
	第 9 回	産婦事例に対する助産診断とケアプランについて：グループで展開	
	第 10 回	産婦事例に対する助産診断にもとづく助産の展開：グループで実施	
	第 11 回	正常経過逸脱予測事例の助産診断とケアプランについて：グループで展開	
	第 12 回	正常経過逸脱予測事例のケアプランと助産の実際：グループで展開	
	第 13 回	正常経過逸脱予測事例の助産の実際：グループ発表と討論	
	第 14 回	助産診断に基づくハイリスク産婦ケアの立案：グループで展開	
	第 15 回	助産診断に基づくハイリスク産婦ケアの立案の発表・討論とまとめ	
評価方法	グループ討論への参加度（60%） データ収集とアセスメント実技（40%）		
参考書テキスト等	テキスト：①町浦美智子：分娩期の診断とケア、助産師基礎教育テキスト5、日本看護協会出版会		
授業外学習の内容	事例を用いた助産診断を妊娠期・分娩期・産褥期・新生児の各期毎に事例発表を行う。周産期に必要な用語を調べておくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産診断・技術学		
科目名	分娩期の助産診断技術学Ⅱ	英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Intrapartum Ⅱ
担当者	久保田 隆子、新井 基子、立木 歌織		
時期・単位	1年次 前期 必修1単位		
指定規則	別表2：「助産診断・技術学」		
当該科目の目的	講義目的	助産診断過程に基づいて、正常分娩を目指した産婦とその家族への援助に必要な知識と技術を習得する。	
	到達目標	1. 仰臥位による分娩の介助がスムーズに展開できる。 2. 産婦の助産診断過程に基づき、それぞれの体位に対応した助産技術の特徴を説明出来る。	
当該科目の内容・計画	第 1 回 助産の概念（久保田） 第 2 回 助産技術の歴史（久保田） 第 3 回 助産技術の展開（久保田） 第 4 回 分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）の展開（介助者、助手）（新井） 第 5 回 分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）の展開（助手業務）（新井） 第 6 回 分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）のグループワーク 1（新井） 第 7 回 分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）のグループワーク 2（新井） 第 8 回 分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）のグループワーク 3（新井） 第 9 回 助産の理論と技術（アクティブバース）（立木） 第 10 回 助産の理論と技術（水中出産）（立木） 第 11 回 助産の理論と技術（スクワッティング）（立木） 第 12 回 助産の理論と技術（側臥位分娩）（久保田） 第 13 回 助産の理論と技術（座位分娩）（久保田） 第 14 回 助産における体位と環境にかかわる討論とまとめ（久保田） 第 15 回 分娩介助法（家族を含め事例を用いた仰臥位産）の個人評価（久保田）		
評価方法	実技（70%） レポート（30%）		
参考書テキスト等	テキスト：我部山キヨ子／武谷雄二：助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期，医学書院 参考書：①山本あい子：助産概論，助産師基礎教育テキスト，日本看護協会出版会 ②町浦美智子：分娩期の診断とケア，助産師基礎教育テキスト，日本看護協会出版会 ③進純郎：分娩介助学 第2版，医学書院 ④岩田塔子：体位別フリースタイル分娩介助法，メディカ出版 ⑤中根直子：分娩介助，ヘルネイタルケアノート，メディカ出版 ⑥高崎健康福祉大学分娩介助手順 他		
授業外学習の内容	①授業で学んだ知識や助産技術は時間外を利用して必ず復習・トレーニングしておくこと。 ②滅菌操作の基本的な看護技術（ガウンテクニック、摂子の使い方、手袋）は時間外で練習すること。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産診断・技術学		
科目名	産褥・新生児期の助産診断技術学	英文名	Midwifery Diagnosis and Skills in Postpartum and Neonatal
担当者	久保田 隆子、新井 基子、立木 歌織		
時期・単位	1年次 前期 必修2単位		
指定規則	別表2：「助産診断・技術学」		
当該科目の目的	講義目的	産婦と新生児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識・技術を習得する。また、産婦と乳児に対する支援と健康教育に必要な基本的知識、技術を習得する	
	到達目標	産婦と新生児の経過を理解し、その健康状態を診断する上で必要な知識・技術を習得する。また、産婦と乳児に対する支援と健康教育に必要な基本的知識、技術を習得する。	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 2 回 産褥の生理と異常（久保田） 第 3 ～ 4 回 産褥の経過とスクリーニング、産婦のセルフケア支援（久保田） 第 5 ～ 6 回 母子早期接触、分娩想起への支援、家族計画・受胎調節（久保田） 第 7 ～ 8 回 母乳育児支援（新井） 第 9 ～ 10 回 母乳育児支援、出生直後の新生児ケア（新井） 第 11 ～ 12 回 新生児のアセスメントとケア（久保田） 第 13 ～ 14 回 育児に必要な知識と技術支援（家庭での新生児ケア）（久保田） 第 15 ～ 16 回 育児に必要な知識と技術支援（家庭での沐浴）（久保田） 第 17 ～ 18 回 ハイリスク新生児ケア（立木） 第 19 ～ 20 回 母子愛着障害・児の虐待要因早期発見（立木） 第 21 ～ 22 回 産褥母子事例の助産診断過程（グループワーク）（立木） 第 23 ～ 24 回 産褥母子事例の助産診断過程（グループワーク）まとめと発表・討論（久保田） 第 25 ～ 26 回 乳児の成長・発達とケア（新生児期）（久保田） 第 27 ～ 28 回 乳児の成長・発達とケア（久保田） 第 29 回 幼児の成長・発達とケア（久保田） 第 30 回 予防接種（久保田）		
評価方法	筆記試験（50%） 実技・レポート（50%）		
参考書テキスト等	テキスト：①横尾京子：産褥期のケア/新生児期・乳幼児期のケア，助産師基礎教育テキスト，日本看護協会出版会 参考書：①遠藤俊子：ハイリスク妊産婦・新生児ケア，助産師基礎教育テキスト，日本看護協会出版会 ②我部山キヨ子／武谷雄二：助産診断・技術学Ⅱ 分娩期・産褥期，医学書院 ③Glenys Boxwell（沢田健／エクランド源雅子）：新生児集中ケアハンドブック，医学書院 ④仁志田博：新生児学入門 第4版，医学書院 ⑤NPO法人日本ラクターション・コンサルタント協会：母子育児支援スタンダード，医学書院 ⑥水野克巳、水野典子：母乳育児支援講座，南山堂 ⑦その他資料配布		
授業外学習の内容	①授業で学んだ知識や技術は、必ず復習・トレーニングすること。 ②母性看護学で学んだ知識は忘れないように暗記して講義に臨むこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 地域母子保健		
科目名	地域母子保健論	英文名	Maternal Child Health in the Community
担当者	大石 時子、山崎 圭子、立木 歌織、金 寿子		
時期・単位	2年次 前期 必修1単位		
指定規則	別表2：「地域母子保健」		
当該科目の目的	講義目的	地域における助産師活動を展開するために、国、都道府県、市町村、公益法人、NPOにおける助産師の母子保健活動の歴史的理解、母子保健活動の動向等の理解を基盤とし、地域母子保健活動の目的、しくみ、展開のプロセス、地域における連携、協働、個別支援、グループ、地域組織活動の育成支援等、具体的な事例を含めて学ぶとともに、助産師としてのリーダーシップのあり方を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期から一貫した母子と家族に対する健康支援を理解する。 2. 母子・家族に関する健康指標と地域特性を踏まえたアセスメントを説明できる。 3. 地域の特性や母子の健康レベルに応じた母子への支援を計画し発表できる。 4. 多職種協働と連携の必要性を説明でき、実行できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回	地域母子保健活動の目的と仕組み（立木）	
	第 2 回	国、都道府県、市町村、公益法人、NPO等の助産師の母子保健活動の歴史的理解（山崎）	
当該科目の内容・計画	第 3 回	地域母子保健活動の基盤となる法律や制度、社会の変化に伴う制度上の矛盾（山崎）	
	第 4 ～ 5 回	妊娠期から一貫した母子とその家族に対する健康支援、母子とその家族に関する健康指標（立木）	
当該科目の内容・計画	第 6 ～ 7 回	地域特性に関連付けた地区診断の実施（立木）	
	第 8 ～ 9 回	地域の母子の健康レベルに応じて、健康診査や相談の技法を用いた新たな支援の試み（立木）	
当該科目の内容・計画	第 10 ～ 11 回	地域における様々な協働（金）	
	第 12 ～ 13 回	地域組織活動の育成支援等（立木）	
当該科目の内容・計画	第 14 ～ 15 回	討論とまとめ：あなたの町の母子保健活動（大石）	
	評価方法	筆記試験（60%） レポート（40%）	
参考書テキスト等	参考書：①国民衛生の動向2012/2013、厚生労働統計協会 ②群馬県保健要覧25年度版、群馬県保健予防課		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。 2. 講義中の討論において、自分の意見を述べるができるよう準備しておくこと。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 実践助産学		
科目名	助産学実習Ⅰ（基礎）	英文名	Clinical Practice of Midwifery（Basics）
担当者	久保田 隆子、大石 時子、茂木 佐智子、新井 基子、黒岩 あゆみ		
時期・単位	1年次 前期 必修3単位		
指定規則	別表2：「助産学実習」		
当該科目の目的	講義目的	周産期における母児とその家族を支援するため、教員・指導者と共に基本的な助産診断・助産能力と実習環境に対応した学習態度を習得する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦健康診査を実践でき、妊婦への保健指導の目的と方法を説明できる。 2. 助産過程を展開しながら、指導者とともに3例の助産を実践し、自らの課題を見出し述べるができる。 3. 産褥新生児の助産診断とケアを実践できる。 4. 周産期における保健指導の目的と方法を説明できる。 5. 施設における助産管理を説明できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 週目	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助1例目：分娩経過、出産時期予測判断、あらゆる準備時期の指導を受け、指導者と共に手洗いと介助実施、助産記録見学、後片付け。実習記録の総てに記録し指導者・教員の指導を得る。1例目の反省と2例目の目標立案（2日） ・妊婦健康診査と保健指導の見学（2日） ・分娩と助産ケアの見学（1日） 	
	第 2 週目	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助2例目：産婦助産計画立案、分娩予測判断、あらゆる準備、介助の技術目標を立てて、指導者の許可を得て、共に手洗い・介助。新生児の観察の実施。学生の助産記録し、報告し指導を得る。実習記録のすべてに記載し2例目の反省と3例目の目標立案。（2日） ・産褥新生児の診断とケア（1日） ・保健指導（個人・集団）の見学（1日） 	
当該科目の内容・計画	第 3 週目	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助3例目：上記の助産実践の内容において、指導者は手洗いをするが直接は手を出さない。出生証明書、母子健康手帳記載の見学と責務を学ぶ。（2日） ・継続事例の決定（1日） ・施設の助産管理・保健指導立案実施（1日） 	
	評価方法	課題習得度（70%） 参加度（30%）	
参考書テキスト等	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書		
授業外学習の内容	【備考】 <ul style="list-style-type: none"> ・1週間（5日間）＝45時間 ・実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になることがある。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 実践助産学		
科目名	助産学実習Ⅱ（実践力開発）	英文名	Clinical Practice of MidwiferyⅡ（Practical Development）
担当者	久保田 隆子、大石 時子、茂木 佐智子、新井 基子、黒岩 あゆみ		
時期・単位	1年次 後期 必修4単位		
指定規則	別表2：「助産学実習」		
当該科目の目的	講義目的	女性と周産期における母児とその家族を支援するため、女性や妊産褥婦や家族とのかかわりができ、助産診断・技術能力を高め、助産師としての態度を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産過程が展開でき、指導のもとに4例の助産技術を1例ずつ高めながら実践できる。 2. 助産における間接介助と新生児のケアを実践できる。 3. エビデンスに基づき女性並びに周産期における保健指導を助言のもとに実践できる。 4. 女性並びに妊婦、産婦、褥婦の健康診査と診断に基づきケアの実践ができる。 	
当該科目の内容・計画	第1週目	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助（4例目）と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ（2日間） ・間接介助の実施に関する指導（1日間） 	
	第2週目	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助（5例目）と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ（2日間） ・分娩直後の産婦ケア・褥婦への指導・助言（1日間） 	
当該科目の内容・計画	第3週目	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助（6例目）と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ（2日間） ・分娩直後の新生児ケア・早期新生児へのケア指導・助言（1日間） 	
	第4週目	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助（7例目）と助産診断・計画・実践・評価と課題のまとめ（2日間） 	
当該科目の内容・計画	第1～4週目	<ul style="list-style-type: none"> ・助産過程の展開とケアの実際の助言指導（3日間） ・妊婦褥婦保健指導案（個人・集団）の立案と実施の指導助言（3日間） ・妊婦健診の指導・助言（3日間） <p>上記分娩介助3例目以降の実習の中に、妊娠期から出産後1か月まで継続して受け持つ事例を含むことができる。</p>	
評価方法	課題習得度（70%） 参加度（30%）		
参考書テキスト等	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書		
授業外学習の内容	<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開講時期：1年次1月後半～2月 ・1週間（5日間）＝45時間 ・実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になることがある。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 実践助産学		
科目名	助産学実習Ⅲ（実践力発展）	英文名	Clinical Practice of MidwiferyⅢ（Practical Advanced）
担当者	久保田 隆子、大石 時子、茂木 佐智子、新井 基子、黒岩 あゆみ		
時期・単位	1年次 後期 必修3単位		
指定規則	別表2：「助産学実習」		
当該科目の目的	講義目的	既習の助産診断・技術能力を統合させて、自律と連携に向けた確かな技術の確認と発展を目指し、経験知の科学的考察のための基盤を築く。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 既習の知識・技術を統合し、助産過程に基づいた助産を自律的に3例実践できる。 2. 周産期における多職種連携チームの一員として、周産期のカンファレンスに参加し、課題解決に取り組むことができる。 3. 継続事例の2例について妊娠から助産を含めた出産育児ケア・指導の実践ができる。 4. 周産期における保健指導を助言のもとに実践できる。 	
当該科目の内容・計画	第1週目	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩介助（8例目～10例目）自律的な助産過程を展開し、助産を実践する（3日間） ・継続ケア2例（妊娠期の診断と援助、保健指導の実施、助産、産褥期の診断と援助、保健指導の実施、1ヶ月健診、家庭訪問）（5日間、継続事例の経過に合わせて日程を決める） 	
	第2週目	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦（初期1例、中期1例、後期1例）と褥婦・新生児（各3例）の健康状態を診断でき、ケアを実践する（4日間） ・保健指導案（個人、集団）の立案と実施、評価（3日間） ・臨地多職種とのカンファレンスに参加する 	
評価方法	継続事例2例の総合的まとめ（50%） 継続事例より学んだ課題と今後に向けた対策レポート（50%）		
参考書テキスト等	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書		
授業外学習の内容	<p>【備考】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開講時期：1年次2月第4週～3月 ・1週間（5日間）＝45時間 ・実習施設の予定や分娩の状況によって予定が変更になることがある。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産師養成領域専門科目 実践助産学		
科目名	助産学実習Ⅳ（助産管理）	英文名	Clinical Practice of MidwiferyⅣ (Midwifery Management)
担当者	久保田 隆子、大石 時子、茂木 佐智子、新井 基子、黒岩 あゆみ		
時期・単位	2年次 前期 必修1単位		
指定規則	別表2：「助産学実習」		
当該科目の目的	講義目的	助産師が活動する地域、及び産科棟での役割と責任、業務の推進にかかわる助産管理の実際を学ぶとともに、現状の課題を理解し、解決のための方策を考えることができる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療報酬や自由診療、出産育児一時金などの社会保障を理解し、説明できる。 2. 管理の実際を理解でき、課題を見つけられる。 3. 助産施設の医療安全対策とアメニティの向上に関する業務の実際を説明出来る。 4. 助産師の倫理と理念に基づいた母子の継続ケア、並びにウイメンズヘルス・ケアを実践できる。 5. 関係諸記録の種類の確認と記載、保管の実際を説明出来る。 	
当該科目の内容・計画	第 1 日目 第 2 ～ 3 日目 第 4 ～ 5 日目	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の文献検索（見学時の観察ポイントの確認、経営に関しての知識（診療報酬と自由診療等））と整理 ・病院・助産所実習、マネージメントの実際を見学、多職種協同の実際に参画 ・実習後グループディスカッション ・まとめ、レポート作成 	
評価方法	レポート（60％） 発表（40％）		
参考書 テキスト等	資料配布、授業等で用いた資料、テキスト・参考書		
授業外学習の内容	予習を行い、体調を整えて実習に臨むこと。 【備考】 1週間（5日間）＝45時間		

科目区分	専門科目助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学実践Ⅰ（EBPM探究）	英文名	Practice of Midwifery I (Search for EBPM)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	1年次 後期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向けEBPM（Evidence Based Practice Midwifery）とは何かについて理解し、注目すべき内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産にかかわる注目すべき技術を標記し、意義と課題を説明出来る。 2. 課題を明確にし、文献にたどり着きクリティークしたけっかを報告できる。 3. 研究目的の焦点化と課題を明確にし説明出来る。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 第 2 ～ 3 回 第 4 ～ 5 回 第 6 ～ 8 回 第 9 ～ 11 回 第 12 ～ 13 回 第 14 ～ 15 回	EBPMの歴史、助産学にかかわる内外研究の紹介（大石） 助産学にかかわる内外研究紹介と購読、グループワーク（大石） 助産技術文献のクリティーク（大石） 文献のクリティークと研究目的の焦点化（大石） 研究テーマの設定（久保田、今関） 研究枠組みの作成（久保田、今関） 理論的サブストラクションを基に研究計画書作成（久保田、今関）	
評価方法	レポート（100％）		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。 テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－、ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	主体的に研究を行ってゆくため、ここでの講義において予習・復習を行い、自分の研究テーマなどを念頭におきながら学びを深めていくこと。		

科目区分	専門科目助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学実践Ⅱ (EBPM展開)	英文名	Practice of Midwifery II (Extending for EBPM)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	2年次 前期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	研究テーマ、理論的サブストラクションに基づいて、助産技術のエビデンスを踏まえた研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的過程を踏まえて、プレテストとして助産技術を展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。 2. 技術の介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。 3. 倫理的条件を満たし、倫理的条件を満たした必要時プレテストとしてフィールドで展開できる。 4. 研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>4 月 助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉 対象者の選定と実施手続き</p> <p>5 月 介入プログラム・効果判定指標等の点検</p> <p>6 月 研究展開のプレテストによるデータ収集 実施方法の再点検、修正、研究計画書完成</p>		
評価方法	レポート (100%)		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	主体的に研究をすすめていくために、困った時は積極的に指導教員からアドバイスを受けること。		

科目区分	専門科目助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学実践Ⅲ (地域実践)	英文名	Practice of Midwifery III (Community Practice)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	2年次 通年 必修3単位		
当該科目の目的	講義目的	助産所 (院内助産所)、地域社会における母子保健活動の連携、周産期母子コーディネーターに関して、選定した実践拠点において、助産学にかかわる自己課題に対する統合実習を行い、助産学における理念、技術、患者の熟成を高め、課題を達成する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己課題に対応した実習場所を決め、交渉できる。 2. 実習計画を企画し、立案できる。 3. 実習計画に基づき実践し、課題を達成できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>実習準備</p> <p>5 月 課題目的に沿った地域実践の実施 地域実践の拠点 院内助産所：助産所とうみ 地域連携：寿助産院 (高崎地区の産後母子訪問システムの調整役) 周産期搬送コーディネーター：県立小児医療センター</p> <p>まとめ</p>		
評価方法	レポート (100%)		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	今までの知識の統合をしたうえで、積極的かつ主体的に取り組むこと。 【備考】 1週間(5日間)=45時間		

科目区分	専門科目助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学												
科目名	助産学課題研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Midwife										
担当者	大石 時子												
時期・単位	2年次 通年 必修4単位												
当該科目の目的	講義目的	臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的条件も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として公表する。											
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究のフィールドに教員と共に交渉できる。 2. 研究倫理審査に対応できる。 3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。 											
当該科目の内容・計画	<p style="text-align: center;">2年次7月から1月に開講</p> <table> <tr> <td>7月</td> <td>研究倫理審査</td> </tr> <tr> <td>8～9月</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>中間発表会</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>データ分析</td> </tr> <tr> <td>12～1月</td> <td>修士論文作成</td> </tr> </table>			7月	研究倫理審査	8～9月	データ収集	10月	中間発表会	11月	データ分析	12～1月	修士論文作成
7月	研究倫理審査												
8～9月	データ収集												
10月	中間発表会												
11月	データ分析												
12～1月	修士論文作成												
評価方法	研究成果（100％）												
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ												
授業外学習の内容	積極的かつ主体的に取り組むこと。 時間の管理を心がけること。												

科目区分	専門科目助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学												
科目名	助産学課題研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Midwife										
担当者	久保田 隆子												
時期・単位	2年次 通年 必修4単位												
当該科目の目的	講義目的	臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的条件も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として公表する。											
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究のフィールドに教員と共に交渉できる。 2. 研究倫理審査に対応できる。 3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。 											
当該科目の内容・計画	<p style="text-align: center;">2年次7月から1月に開講</p> <table> <tr> <td>7月</td> <td>研究倫理審査</td> </tr> <tr> <td>8～9月</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>中間発表会</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>データ分析</td> </tr> <tr> <td>12～1月</td> <td>修士論文作成</td> </tr> </table>			7月	研究倫理審査	8～9月	データ収集	10月	中間発表会	11月	データ分析	12～1月	修士論文作成
7月	研究倫理審査												
8～9月	データ収集												
10月	中間発表会												
11月	データ分析												
12～1月	修士論文作成												
評価方法	研究成果（100％）												
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ												
授業外学習の内容	自分が研究目的とするテーマに近い文献を集めること。 文献リストを作成すること。 研究に必要な書籍を調べること。												

科目区分	専門科目助産学分野 助産師養成領域専門科目 助産実践開発科学												
科目名	助産学課題研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Midwife										
担当者	今関 節子												
時期・単位	2年次 通年 必修4単位												
当該科目の目的	講義目的	臨床実習、助産学実践Ⅰ、Ⅱ、Ⅲにおいて、事例を通して焦点化した課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献に基づき倫理的条件も踏まえて研究を計画し、実施し、論文として公表する。											
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究のフィールドに教員と共に交渉できる。 2. 研究倫理審査に対応できる。 3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。 											
当該科目の内容・計画	<p style="text-align: center;">2年次7月から1月に開講</p> <table> <tr> <td>7月</td> <td>研究倫理審査</td> </tr> <tr> <td>8～9月</td> <td>データ収集</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>中間発表会</td> </tr> <tr> <td>11月</td> <td>データ分析</td> </tr> <tr> <td>12～1月</td> <td>修士論文作成</td> </tr> </table>			7月	研究倫理審査	8～9月	データ収集	10月	中間発表会	11月	データ分析	12～1月	修士論文作成
7月	研究倫理審査												
8～9月	データ収集												
10月	中間発表会												
11月	データ分析												
12～1月	修士論文作成												
評価方法	研究成果（100％）												
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ												
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 焦点化した課題に関わる文献を収集し、抄読し、クリティークして、学習した方式に基づいて文献集として整理していき、研究計画の構築、分析、論文作成に備えて活用する。 2. 院全体の研究実施・発表・論文提出の予定に基づいて、各自の研究進捗状況計画を立案して、自律的に進めていけるよう整える。 												

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	看護学研究法	英文名	Advanced Research Methods in Nursing Science
担当者	縄 秀志、吉田 久美子、石田 順子、倉林 しのぶ、砂賀 道子、櫻井 美和、武田 貴美子		
時期・単位	1年次 前期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	<p><1回～15回：量的研究法> 保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および介入研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を学ぶ。</p> <p><16回～30回：質的研究法> 保健医療における質的研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を習得する。代表的な分析方法（事例研究、内容分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチ、現象学）について、研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について学ぶ。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点およびデータの種類、真実性を高めるためのデータ収集・データ分析方法の特徴について学ぶ。</p>	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療における量的研究と質的研究の意義・役割が理解できる。 2. 人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を理解できる。 3. 各研究方法の特徴およびプロセスを理解できる。 	
当該科目の内容・計画	量的研究法	<p><量的研究法></p> <p>第 1 回 保健医療におけるエビデンス構築のための量的研究の意義・役割、研究倫理（縄）</p> <p>第 2 回 文献クリティーク（縄）</p> <p>第 3 回 実験、準実験研究のプロセス（縄）</p> <p>第 4 回 実験、準実験研究における妥当性・信頼性（縄）</p> <p>第 5 回 学生による実験、準実験研究の文献クリティークのプレゼンテーションとディスカッション（縄）</p> <p>第 6 回 調査研究のプロセス（石田）</p> <p>第 7 回 調査研究における妥当性・信頼性（石田）</p> <p>第 8 回 学生による調査研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（石田）</p> <p>第 9 回 尺度開発のプロセス（吉田）</p> <p>第 10 回 尺度開発における妥当性・信頼性（吉田）</p> <p>第 11 回 学生による尺度開発の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（吉田）</p> <p>第 12 回 介入評価研究のプロセス（縄）</p> <p>第 13 回 介入評価研究の妥当性・信頼性（縄）</p> <p>第 14 回 学生による介入研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）（縄）</p> <p>第 15 回 量的研究法のまとめ（縄、石田、吉田）</p>	
	質的研究法	<p><質的研究法></p> <p>第 16 回 保健医療における質的研究の意義・役割、研究倫理（櫻井）</p> <p>第 17 回 質的研究のプロセス（櫻井）</p> <p>第 18 回 質的研究における真実性を高める対象選定・データ収集とは（櫻井）</p> <p>第 19 回 質的研究における真実性をたかめるデータ分析とは（櫻井）</p> <p>第 20 回 質的研究における真実性をたかめる結果・考察とは（櫻井）</p> <p>第 21 回 内容分析とは（櫻井）</p> <p>第 22 回 内容分析の研究プロセス（倉林）</p> <p>第 23 回 内容分析の研究プロセス（倉林）</p> <p>第 24 回 事例研究とは（武田）</p> <p>第 25 回 事例研究のプロセス（武田）</p> <p>第 26 回 グラウンデッド・セオリー・アプローチと修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（砂賀）</p> <p>第 27 回 グラウンデッド・セオリー・アプローチ演習（砂賀）</p> <p>第 28 回 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチの文献クリティーク（砂賀）</p> <p>第 29 回 学生による質的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）①（櫻井、倉林、武田、砂賀）</p> <p>第 30 回 学生による質的研究の文献クリティーク（プレゼンテーションとディスカッション）②（櫻井、倉林、武田、砂賀）</p>	
評価方法	プレゼンテーション（30%） レポート（70%）		
参考書テキスト等	<p>黒田裕子他監訳（2007）：バーンズ&グループ看護研究入門-実施・評価・活用-、エルゼビア・ジャパン</p> <p>Burns & Grove（2009）：The practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence（6th Ed）, ELSEIER SAUNDERS.</p> <p>対馬栄輝（2010）：医療系研究論文の読み方・まとめ方、東京図書</p> <p>対馬栄輝、石田水里（2013）：医療系データのとり方・まとめ方、東京図書</p> <p>野口美和子監訳（2006）：ナースのための質的研究入門、医学書院</p> <p>萱間真美（2007）：質的研究実践ノート、医学書院</p> <p>オホクレイグヒル滋子：質的研究方法ゼミナール グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ 医学書院</p> <p>木下康之：M-GTA グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践 質的研究への誘い 弘文堂</p> <p>木下康之：ライブ講義 M-GTA 弘文堂</p>		
授業外学習の内容	<p>予習を必ず行い、疑問を明確にして授業に臨むこと。文献検索の方法を熟知していること。</p> <p>自分の研究テーマに関する各研究法の文献のクリティークおよびミニ文献レビューのレポートを提出する。</p>		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅰ	英文名	Advanced Theory of Midwifery I
担当者	大石 時子、今関 節子、竹内 正人		
時期・単位	1年次 前期 必修1単位		
当該科目の目的	講義目的	性と生殖のケアにかかわる専門家としての学び方、進み方、保健、社会・文化的役割期待を自覚し、専門家としての倫理に基づき助産学独自の領域を開発し、構築していく方途を探索し、明らかにすることを目的とする。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産学独自の対象へのアプローチ、ケア特質について、自己の具体的経験知よりEBPMへの考察を深め、新たに学ぶ文化的、歴史的背景も含めて説明出来る。 2. 内外並びに地域社会の中での助産・助産師としての従来の経験を基盤にした新たな活動戦略を目指し、本課程における独自の学習計画を、説明出来る。 	
当該科目の内容・計画	<p>第1回 種の存続への過程で女性があみだした未代性³⁾のケア討論（今関）</p> <p>第2回 EBPMのルーツと産科実践への導入（今関）</p> <p>第3回 ポートフォリオ手法の活用と各自のポートフォリオ（今関）</p> <p>第4回 助産学独自の観察視点と意義（今関）</p> <p>第5回 女性にとって望ましい出産環境（総論）（竹内）</p> <p>第6回 女性にとって望ましい出産環境（事例の紹介と考察）（竹内）</p> <p>第7回 日本における開業・施設内助産師有機的連携と地域貢献戦略（今関）</p> <p>第8回 産科・助産をめぐるトピックスと助産師の挑戦（ICMより）（大石）</p> <p>注）男性の一代性（森崎和江）に対して女性と次世代における未来に対して用いた</p>		
評価方法	レポート：将来の目指す方向と本課程における自己の学習計画（100%）		
参考書テキスト等	<p>テキスト：①成田伸：助産師基礎教育テキスト1 ②助産師業務要覧第2版（基礎編、実践編），看護協会出版会</p> <p>参考図書：①鈴木敏江：ポートフォリオ評価とコーチング手法 医学書院 ②木村尚子：出産と生殖をめぐる攻防 大月書店 ③ジェームズC.コリンズ：ビジョナリーカンパニー、日経BP社 ④その他資料で提供</p>		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 種の存続にかかわるあらゆる動植物の中から各自一つの種を選んで、その過程を映像、書物、体験・観察、物語のどこからでもよいが記述し、それを通して種の存続とその努力にかかわる各自の概念をまとめ、授業終了時提出する。 2. 各自のポートフォリオを作成し、課程を修了まで継続していく。 3. 群馬県の周産期医療体制整備計画について調べ、第7回の授業で戦略として実際との有機的な位置づけに提案していた。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅱ（ウイメンズヘルス）	英文名	Advanced Theory of Midwifery II (Women's Health)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、蓮尾 豊		
時期・単位	1年次 後期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフサイクルにおける性と生殖にかかわる助産師の視点からのアセスメントとケア並びにその評価について学び実践に生かせる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 思春期男女に対する基本的姿勢と、心身の理解の基に相談や、適切な対応ができる。 2. 男女のセクシュアリティの特性を理解し、健全な性の発達、受胎調節、性暴力や妊娠の中断に対する個別相談や集団指導の基礎を理解し説明出来る。 3. 性感染症、月経に対する理解と課題、中高年の健康問題、問題対応について説明出来る。 4. グループワークにおいては、実践開発領域の学生はリーダーシップを発揮し、助産師資格取得領域の学生は、フォローアップを発揮できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>第1回 思春期女性の支援（ビルを含む）（大石）</p> <p>第2回 思春期女性の支援グループワーク（大石）</p> <p>第3回 女性とパートナーに対する支援（大石）</p> <p>第4回 女性とパートナーに対する支援：事例展開とグループワーク（大石）</p> <p>第5回 女性とパートナーに対する支援：事例展開とグループワーク（大石）</p> <p>第6回 不妊の悩みを持つ女性の現状と事例討論（久保田）</p> <p>第7回 不妊女性を取り巻く家族・社会と事例の討論（久保田）</p> <p>第8回 不妊の悩みを持つ女性に対する支援グループワーク（久保田）</p> <p>第9回 不妊女性と家族に対する支援と社会に対する啓蒙まとめ発表（久保田）</p> <p>第10回 中高年女性における性と生殖、身体的健康上の特徴（大石）</p> <p>第11回 中高年女性に対する支援：グループワークとまとめ（大石）</p> <p>第12回 性感染症予防と支援（子宮頸がん予防とワクチン啓蒙）（大石）</p> <p>第13回 性感染症予防と支援グループワークとまとめ（大石）</p> <p>第14回 女性と月経、月経障害について（蓮尾）</p> <p>第15回 月経障害に対する支援と教育グループワーク（蓮尾）</p>		
評価方法	筆記試験（70%） レポート（30%）		
参考書テキスト等	<p>テキスト：①吉沢豊予子：助産師基礎教育テキスト2，看護協会出版会 ②村本淳子他編：ウイメンズヘルス概論女性の健康と看護，ヌーベルヒロカワ</p> <p>参考書：③ウイメンズヘルス事典-女性のからだどころガイド，日本母性衛生学会</p>		
授業外学習の内容	受胎調節実施指導員としての内容と自助グループについての発表会を行う。企画書作成は助産師活動の参考になるような内容として作成すること。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅲ（助産管理）	英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅢ (Midwifery Management)
担当者	寺田 眞廣、村上 睦子		
時期・単位	1年次 後期 必修1単位		
当該科目の目的	講義目的	助産業務、管理、および病院、助産所運営の基本的な法的理解を図るとともに、助産業務の評価とその調整ができるための管理プロセスの基礎を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産業務に関する法律を理解し説明できる。 2. 助産管理の方法を理解し、説明できる。 3. 安全管理のあり方を理解し、説明できる。 4. 自己の開設する助産所または勤務する周産母子センターを想定し、助産管理の一側面における姿勢を説明できる。（各自の経験に基づき想定したそれぞれの助産管理） 	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 2 回 助産業務・管理の概念（村上） 第 3 ～ 5 回 助産業務管理過程の方法と実際（寺田） 第 6 ～ 7 回 助産業務に関連する法規（法的責務）（寺田） 第 8 ～ 9 回 助産業務に関連する法規（法的施策）（寺田） 第 10 回 助産業務管理の実際（病院）（村上） 第 11 回 助産業務管理の実際（含助産所等の連携）（村上） 第 12 ～ 13 回 周産期における安全管理・危機管理（寺田） 第 14 回 助産師と災害対策（寺田） 第 15 回 助産師のキャリア形成、後輩助産師の育成（寺田）		
評価方法	筆記試験（50％） レポート「私の想定する施設と助産管理の姿勢」（50％）		
参考書 テキスト等	テキスト：①我部山・他：助産学講座10、医学書院 ②助産業務要覧、看護協会出版会 ③成田：助産師基礎教育テキスト3、看護協会出版会 参考書：看護六法（平成25年版）、新日本法規		
授業外学習の内容	各授業内で示すので、次回までに学習して授業に臨むこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産学特論Ⅳ（開業・院内助産）	英文名	Advanced Theory of MidwiferyⅣ (Independent Practice of Midwifery)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、西山 信之、宮下 美代子、金 寿子、林 啓子		
時期・単位	1年次 後期 必修1単位		
当該科目の目的	講義目的	地域において助産所を開業したり、院内助産を設置、運営するのに必要な企業家としてのマインドと経営的視点を持ちつつ、マネジメントを行っていくための基礎を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経営や、経営戦略を理解し、具体的方略を説明ができる。 2. マネジメントの一環としての多職種協働を理解し、人と人との調整ができる。 3. リスク管理や必要時の対応を具体的に説明できる。 4. 行政への働きかけ（産後母子訪問システム等の実績等）、NPO法人の取得・運営を理解し、自己の企画書を発表できる。 5. 助産に関する各種ガイドラインを理解し、実践に向けた説明ができる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 病院における経営と経営戦略について（西山） 第 2 回 病院における経営戦略の実際（西山） 第 3 回 助産所における経営と経営戦略（宮下） 第 4 回 助産所における経営戦略の実際（宮下） 第 5 回 助産師の自律と多職種協働（内外）のあり方（宮下） 第 6 回 助産師の自律と人間関係の調整（宮下） 第 7 回 医療の安全体制、緊急時の対応、ハイリスク妊産婦ケアの適切な展開（宮下） 第 8 回 NPO法人の取得（大石） 第 9 回 医療事故防止、感染予防対策、災害対策等（久保田） 第 10 回 院内助産システムと助産師の自律について（林） 第 11 回 助産師の自律（バースセンターの設立経験から）（林） 第 12 回 行政との連携（産後母子訪問システムの実績等）（金） 第 13 回 母子訪問の実際と留意点（金） 第 14 回 周産期に関連する様々なガイドラインー産婦人科診療ガイドライン2014（大石） 第 15 回 助産業務ガイドライン2014（大石）		
評価方法	グループワーク；リーダーシップ・発表（30％） 具体的企画書（70％）		
参考書 テキスト等	ジェームズC.コリンズ：ビジョナリーカンパニー、日経BP社 その他資料で提供		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。 2. 講義中の討論で自分の意見を述べるができるよう準備しておくこと。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	助産における補完代替医療	英文名	Complementary and Alternative Care in Midwifery
担当者	今関 節子、山西 加織		
時期・単位	2年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフスタイルをホリスティックに観て、一人一人の状態に合わせた健康管理の一環として、助産業務における適切な活用範囲を、特に周産期に焦点をあててその目的、適用、実際を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産業務の中に補完代替医療を活用するにあたっての安全性、倫理性の確認倫理が説明出来る。 2. 各種代替医療を正しく理解し、十分な習得の元で適切に実施できる。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 補完代替医療とリスクマネジメント（今関） 第 2 回 ヨガの基礎理論（山西） 第 3 回 ヨガの実際（山西） 第 4 回 妊産婦エクササイズの理論（今関） 第 5 回 妊産婦エクササイズの実際（今関） 第 6 回 マッサージ法（今関） 第 7 回 呼吸法（今関） 第 8 回 身体的リラクセス法（今関） 第 9 回 心理的リラクセス法（今関） 第 10 回 アロマ・ハーブに使われる精油（今関） 第 11 回 女性のライフサイクルとアロマセラピー（今関） 第 12 回 リフレクソロジーの基礎理論（今関） 第 13 回 リフレクソロジー-実際（今関） 第 14 回 ツボの基礎理論（今関） 第 15 回 ツボの女性・妊産婦ケアへの適用（今関）		
評価方法	（各方法を選択して）レポート（100%）		
参考書テキスト等	参考書：①飯島浩二：女性によく効くアロマセラピー、主婦の友社 ②松本清一・他：妊産婦体操の理論と実際、全国保健センター連合会 ③今西二郎：医療従事者のための補完・代替医療、金芳堂 ④その他その都度資料を配布する		
授業外学習の内容	一つの補完代替医療の技術を選んで、学習会・講習会・教室に自主的に参加し、学級活動等で考察を含めて披露し、自分の一つの助産技術として深めていくことに繋げること。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	女性のフィジカルアセスメント	英文名	Physical Assessment of Women
担当者	大石 時子、久保田 隆子、今関 節子、新井 基子		
時期・単位	1年次 前期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	女性に対する性と生殖に関わるフィジカルアセスメントの意義と原則並びに基本技術の理論と実際を理解し、実践のための土台を築く。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師が行うべき女性の生涯の各ステージに対応したフィジカルアセスメントの観察項目、技法、評価について説明出来る。 2. 女性のフィジカルアセスメントに必要な助産師に許可された観察・計測機器について、操作法と観察事項の評価について説明出来る。 	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 2 回 助産師によるフィジカルアセスメントの基本と意義（大石） 第 3 ～ 4 回 思春期女性の身体の観察法（久保田） 第 5 ～ 6 回 思春期女性の身体の観察法とアセスメントの方法（久保田） 第 7 ～ 8 回 思春期女性の身体の観察法とアセスメントの実際（久保田） 第 9 ～ 10 回 成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察法（久保田） 第 11 ～ 12 回 成熟期、更・老年期女性の全身の一般的診察の実際とアセスメント（久保田） 第 13 ～ 14 回 婦人科的診察法の実際（大石） 第 15 ～ 16 回 婦人科的診察・検体採取法、アセスメントの実際（大石） 第 17 ～ 18 回 超音波診断装置による基礎的操作の理論（今関） 第 19 ～ 20 回 超音波診断装置による基礎的操作と検査一般・アセスメントの実際（今関） 第 21 ～ 22 回 乳房の診察法の基礎理論（新井） 第 23 ～ 24 回 乳房の診察法とアセスメントの実際（新井） 第 25 ～ 26 回 骨盤と骨盤底の基礎的理解（大石） 第 27 ～ 28 回 出産と骨盤・骨盤底の診察とアセスメント（大石） 第 29 ～ 30 回 女性の加齢による骨盤底の診察・アセスメントとケア（大石）		
評価方法	実技試験（60%） 筆記試験（40%）		
参考書テキスト等	参考書：①大石時子・他：助産師のためのフィジカルイグザミネーション、医学書院 ②吉沢豊子：女性の健康とケア、日本看護協会出版会		
授業外学習の内容	演習が中心となる科目なので、助産診断技術の向上の為に説明ができるような知識を深めること。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	産婦人科医学診断	英文名	Gynecology Diagnosis
担当者	篠崎 博光、曾田 雅之、中村 和人		
時期・単位	1年次 前期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	女性のライフサイクルに沿った健康を支援していくために、生涯にわたる女性特有の疾患とその管理について理解する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医学的側面からの疾患のアセスメントならびに疾患管理プロセスを理解する。 2. 婦人科診療の基本的考え方と方法、ならびに疾患診断への姿勢を説明できる。 3. 女性の生涯にわたって起こりやすい疾患と医療について説明できる。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 産婦人科診療（篠崎） 第 2 回 女性性器の構造・女性の性機能（篠崎） 第 3 回 月経とその異常（篠崎） 第 4 回 婦人科検査（篠崎） 第 5 回 女性性器の疾患①（中村） 第 6 回 女性性器の疾患②（中村） 第 7 回 加齢と疾患、ホルモン療法①（曾田） 第 8 回 加齢と疾患、ホルモン療法②（曾田） 		
評価方法	筆記試験（100%）		
参考書 テキスト等	テキスト：①岡井 崇：標準産科婦人科学（STANDARD TEXTBOOK），医学書院		
授業外学習の内容	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	新生児学	英文名	Neonatology
担当者	丸山 憲一		
時期・単位	1年次 前期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	新生児の成熟度および体格による分類とその評価を行う能力を習得する。更に子宮外環境への生理的適応変化を知り、出生後の栄養と育児などを含めた基本的ケアの提供方法を選択、判断できる知識を養う。また、ハイリスク新生児や染色体異常症、代謝異常症など遺伝に関わる疾患や奇形症候群の症例に対して、家族への支援方法を助産師の立場から検討できる知識を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新生児の特徴、生理的適応変化を理解できる。 2. 新生児のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3. ハイリスク新生児、疾患をもつ新生児の病態生理を理解できる。 4. 緊急時に対応できる知識を理解できる。 	
当該科目の内容・計画	<ol style="list-style-type: none"> 第 1 回 新生児学総論、ハイリスク新生児の評価 第 2 回 新生児診断学 第 3 回 新生児の生理、発達 第 4 回 新生児の養護と管理（ハイリスク新生児、NICU入院児を含む） 第 5 回 体温調節と保温 第 6 回 栄養の基礎と診療 第 7 回 水-電解質バランス 第 8 回 内分泌系・代謝系の異常 第 9 回 内分泌系・代謝系の異常と管理 第 10 回 呼吸器系の生理と診療 第 11 回 循環器系の基礎と診療 第 12 回 黄疸の基礎と臨床、血液系の病態と診療 第 13 回 免疫系と感染 第 14 回 中枢神経系の障害と診療 第 15 回 先天異常と遺伝、主要疾患の病態と生理 		
評価方法	筆記試験（100%）		
参考書 テキスト等	テキスト：①仁志田博司：新生児学入門(第4版)，医学書院		
授業外学習の内容	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	周産期ハイリスク論Ⅰ	英文名	High risk of Perinatal Complications I
担当者	伊藤 理廣、竹中 恒久		
時期・単位	1年次 後期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常及び主なる合併症とその予防策について理解できる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の主要な異常の病態生理について述べることができる。 2. 妊娠期・分娩期の母体・胎児、産褥期の異常発生時の対応およびハイリスクな母子のアセスメントとケアを展開できる能力を養う。 3. 緊急時に対応できる知識を学ぶ。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回 胎児の発生と出生前診断 (伊藤) 第 2 回 不妊症 (伊藤) 第 3 回 不育症 (伊藤) 第 4 回 妊娠期の異常と診断-子宮外妊娠、流早産、人工妊娠中絶、死産、PIHと子癇、GDM (竹中) 第 5 回 前置胎盤、癒着胎盤、常位胎盤早期剥離 (竹中) 第 6 回 合併症：甲状腺機能異常、高血圧、糖尿病 (竹中) 第 7 回 合併症：子宮筋腫、心疾患、感染症 (竹中) 第 8 回 胎児の異常：多胎、IUGR (竹中) 第 9 回 分娩期の異常と診断、娩出力：陣痛の異常と分娩誘導、クリステル胎児圧出法、VBAC (竹中) 第 10 回 胎児：胎児位置異常(骨盤位分娩)回旋異常、胎児機能不全 (竹中) 第 11 回 産道：会陰裂傷・切開、吸引分娩、鉗子分娩、帝王切開術 (竹中) 第 12 回 出血：弛緩出血、血栓症、産科ショック、子宮内反、産褥熱 (竹中) 第 13 回 妊産褥婦と薬物：妊娠、分娩、授乳に影響する薬剤 (竹中) 第 14 回 妊産褥婦と薬物：産科麻酔 (竹中) 第 15 回 母子免疫 (竹中)		
評価方法	筆記試験 (100%)		
参考書テキスト等	テキスト①荒木勲：最新産科学 (異常編)、文光堂 ②岡井崇・他編：標準産科婦人科学 (第4版)、医学書院		
授業外学習の内容	次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	周産期ハイリスク論Ⅱ	英文名	High risk of Perinatal Complications II
担当者	高木 剛、伊藤 雄二、丸山 憲一		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	周産期ハイリスク論Ⅰ、新生児学で学習したことをふまえて、妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期におけるハイリスクな母子に対応した医療補助技術として、助産の立場から必要とされる技術を習得する。	
	到達目標	妊娠期・分娩期の母体と胎児、産褥期・新生児期の異常発生時の対応に必要な技術が習得できる。	
当該科目の内容・計画	第 1 ～ 2 回 胎児の評価と診断 (超音波診断) 理論基本操作 (高木) 第 3 ～ 4 回 胎児の評価と診断 (超音波診断) 実技 (高木) 第 5 ～ 6 回 分娩時のモニタリングと胎児の評価 理論と実技 (高木) 第 7 ～ 8 回 産道の異常：会陰切開術と会陰裂傷縫合術理論 (高木) 第 9 ～ 10 回 産道の異常：会陰縫合術基本の実際 (高木) 第 11 ～ 12 回 産道の異常：会陰縫合術の実際 (高木) 第 13 ～ 14 回 産道の異常：会陰縫合術学生相互評価討論 (高木) 第 15 ～ 16 回 分娩時の出血とその対処 (胎盤圧出法、子宮内反、弛緩出血) (伊藤) 第 17 ～ 18 回 産科救急 (産科ショック、薬物療法) (伊藤) 第 19 ～ 20 回 産科救急 (産科ショック、帝王切開術を含む) (伊藤) 第 21 ～ 22 回 娩出力の異常：吸引・鉗子分娩とその介助 (伊藤) 第 23 回 娩出力の異常：骨盤位分娩とその介助 (伊藤) 第 24 ～ 25 回 新生児蘇生法の基礎理論 (丸山) 第 26 ～ 27 回 新生児蘇生法の実技 (丸山) 第 28 ～ 29 回 新生児蘇生法の実技演習 (丸山) 第 30 回 新生児蘇生法相互評価討論 (丸山)		
評価方法	筆記試験 (60%) 演習レポート (40%)		
参考書テキスト等	テキスト：①荒木勲：最新産科学 (異常編)、文光堂 ②岡井崇・綾部琢哉：標準産科婦人科学 (第4版)、医学書院 参考書：①馬場一憲：基礎からわかる産婦人科超音波診断、東京医学社 ②藤森敬：胎児心拍数モニタリング講座 (第2版)、メディカ出版 ③進純郎・堀口成子：正常分娩の助産術-トラブルへの対応と会陰裂傷縫合 (ブラッシュアップ助産学)、医学書院 ④田村正徳：日本版救急蘇生ガイドライン2010に基づく新生児蘇生法テキスト (第2版)、メジカルビュー社 ⑤村越毅・加藤智子：産科の必須手技ベスト58-本当に知りたかった技とコツ、メディカ出版		
授業外学習の内容	胎児超音波検査と胎児心拍数モニタリングで用いられる基礎的な用語の意味を理解しておくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	地域母子保健実習	英文名	Advanced Practice on Maternal and Child Health in the Community
担当者	久保田 隆子、大石 時子		
時期・単位	2年次 前期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	地域における母子の家庭訪問や、地域で開催される母子を対象とした学級、健診、相談、世代間交流、グループ・地域組織形成や、母子保健活動の実際を見学、演習等様々な形で学び、より有効で新たな具体的転換の仕組みを構築し、実践活動能力の基礎を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断の基本を理解し、説明ができる。 2. 地域のアセスメントをし、地域の課題を見いだせる。 3. 地域で実践されている母子への健康診査の方法や相談事業等を理解する。 4. 事業の企画・運営・実践・評価の一連のプロセスを理解し、実施できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 日 ・地域診断、事業の企画から運営、実施、評価までのプロセス</p> <p>第 2 日 ・行政や地域で行われている女性の健康講座等への参画 ・行政や地域で行われている学級等への参画</p> <p>第 3 日 ・行政で行われている妊産婦、新生児の健康診査や相談への参画 ・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の個別の健康診査や相談後のフォローアップへの参画</p> <p>第 4 日 ・行政で行われている妊産婦、新生児、乳幼児等の訪問指導への参画</p> <p>第 5 日 ・グループワーク：実際のクラスの企画から評価まで 学内演習、まとめ</p>		
評価方法	レポート（50%） 演習（50%）		
参考書テキスト等	参考書：①群馬県保健要覧25年度版、群馬県保健予防課		
授業外学習の内容	事前学習を行い、今までの知識を統合したうえで実習に臨むこと。 【備考】 1週間(5日間)=45時間		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	母子保健政策論	英文名	Maternal and Child Health Policy
担当者	大石 時子、今関 節子、山崎 圭子、依田 裕子		
時期・単位	1年次 後期 選択1単位		
当該科目の目的	講義目的	政策の基礎的理論に基づいて、次世代の家族の健全な発展を目指した母子保健を推進していくための方策を学ぶ。実践的事例を通して方策の手法、維持、推進の過程を学ぶ。その上で、新たな課題を探索し、それに対する企画と実践につなげる政策を検討する。さらに、母子保健の課題解決のための助産師のリーダーシップのあり方を学ぶ。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の母子保健の現状と動向について説明できる。 2. 母子保健行政の仕組みや制度、施策に関する知識に基づき課題を説明できる。 3. 母子保健のニーズ把握、及びサービス提供に必要な関係機関や関係職種との連携・調整・協働について課題を含めて説明できる。 4. 母子保健を推進していくための助産師の役割や課題を説明できる。 5. 母子保健を推進していくための助産師のリーダーシップのあり方を説明できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>第 1 回 母子保健施策の歴史と変遷 近代まで（今関）</p> <p>第 2 回 母子保健施策の歴史と変遷 現代（今関）</p> <p>第 3 回 母子保健の概念、周産期トピックス（大石）</p> <p>第 4 回 出産の医療化とその功罪我が国の動向（大石）</p> <p>第 5 回 出産の医療化とその功罪、諸外国の動向（大石）</p> <p>第 6 回 母子保健の現状と動向、制度と施策（山崎）</p> <p>第 7 回 地域母子保健計画と事業への参画（山崎）</p> <p>第 8 回 政策決定への参画（依田）</p>		
評価方法	レポート（100%）		
参考書テキスト等	参考書：①大林道子：助産師の戦後、勁草書房 ②戸田律子訳：WHOの59カ条お産のケア実践ガイド、農文協 ③松岡悦子他編：世界の出産、勉誠出版 ④中山まさ子：身体をめぐる政策と個人、勁草書房		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習・復習を行い、講義に積極的に参加すること。 2. 講義中の討論において、自分の意見を述べることができるよう準備しておくこと。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産学共通科目		
科目名	母子保健政策演習	英文名	Advanced Practice of Maternal and Child Health Policy
担当者	大石 時子、久保田 隆子		
時期・単位	1年次 後期 選択2単位		
当該科目の目的	講義目的	母子保健を推進するために母子保健のあり方を俯瞰し、政策の立案を行う国や地方議員、政策を施行する国や地方の行政機関、専門職団体などの具体的な活動について学ぶ。母子保健の現在の課題を見だし、解決に向けた対策の立案と助産実践ができる能力を養う。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 政策立案や法律の執行する立場の活動方法を理解し、説明できる。 2. MFICU, NICU, GCUの理念を基に、周産期搬送コーディネートの役割を説明できる。 3. 専門職団体の活動のあり方、社会への責任、サービス提供のための質の向上のための方策に基づき、説明できる。 4. 政策を変えていく方法を理解し、自分なりの解決方策を企画し発表できる。 	
当該科目の内容・計画	事前準備	インターンシップに向けての情報収集、目的設定、先方との情報交換 自己のインターンシップに向けての実施企画と相談・先方との交渉	
	第 1 ～ 3 日	厚生労働省、都道府県や市町村行政、国会議員、地方議員専門職団体、周産期搬送コーディネートの現場等でのインターンシップオリエンテーション インターンシップの実際（1日9時間）	
	第 4 日	インターンシップで学んだことのグループ討議とまとめ、発表（3時間）	
評価方法	グループワーク・発表（40％） 筆記試験（60％）		
参考書テキスト等	①秋吉貴雄・他：公共政策学の基礎、有斐閣ブックス ②小熊英二：社会を変えるには、講談社現代新書		
授業外学習の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分が興味のある場はどこなのか、事前によく考えておくこと。 2. インターンシップに選んだ先方との交渉など、事務的な作業も積極的にを行うこと。 		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学実践 I（EBPM探究）	英文名	Practice of Midwifery I (Search for EBPM)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	1年次 後期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	助産師としてエビデンスに基づいた自律的活動と研究に向けEBPM（Evidence Based Practice Midwifery）とは何かについて理解し、注目すべき内外の助産技術文献の検索、助産技術に関する文献のクリティークを行う。また、倫理的手段を踏んで、エビデンスの構築に向けた助産の技術評価が可能な方法を検討し、研究課題を明確にする	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 助産にかかわる注目すべき技術を標記し、意義と課題を説明出来る。 2. 課題を明確にし、文献にたどり着きクリティークしたけっかを報告できる。 3. 研究目的の焦点化と課題を明確にし説明出来る。 	
当該科目の内容・計画	第 1 回	EBPMの歴史、助産学にかかわる内外研究の紹介（今関）	
	第 2 ～ 3 回	助産学にかかわる内外研究紹介と講読、グループワーク（久保田）	
	第 4 ～ 5 回	助産技術文献のクリティーク（新野）	
	第 6 ～ 8 回	文献のクリティークと研究目的の焦点化（新野）	
	第 9 ～ 11 回	研究テーマの設定（今関）	
	第 12 ～ 13 回	研究枠組みの作成（新野）	
	第 14 ～ 15 回	理論的サブストラクションを基に研究計画書作成（新野）	
評価方法	レポート（100％）		
参考書テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する。 テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－、ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	主体的に研究を行ってゆくため、ここでの講義において予習・復習を行い、自分の研究テーマなどを念頭におきながら学びを深めていくこと。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学実践Ⅱ (EBPM展開)	英文名	Practice of Midwifery II (Extending for EBPM)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	2年次 前期 必修2単位		
当該科目の目的	講義目的	研究テーマ、理論的サブストラクションに基づいて、助産技術のエビデンスを踏まえた研究枠組みの作成に向けて、妥当な実習場所を選択し、対象者の選定条件、サンプルサイズ、介入方法、測定指標、分析方法、倫理的過程を踏まえて、プレテストとして助産技術を展開して、研究枠組みを構築し、研究計画書を完成させる。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 課題に基づいたフィールドと対象者が選定でき先方と交渉ができる。 2. 技術の介入方法と、測定指標、解析方法が設定できる。 3. 倫理的条件を満たし、倫理的条件を満たした必要時プレテストとしてフィールドで展開できる。 4. 研究枠組みを構築し、研究計画書を完成し、発表できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>4 月 助産技術実施可能地域・施設の調査・検討と交渉 対象者の選定と実施手続き</p> <p>5 月 介入プログラム・効果判定指標等の点検</p> <p>6 月 研究展開のプレテストによるデータ収集 実施方法の再点検、修正、研究計画書完成</p>		
評価方法	レポート (100%)		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	主体的に研究をすすめていくために、困った時は積極的に指導教員からアドバイスを受けること。		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産実践開発科学		
科目名	助産学実践Ⅲ (地域実践)	英文名	Practice of Midwifery III (Community Practice)
担当者	大石 時子、久保田 隆子、今関 節子		
時期・単位	2年次 通年 必修3単位		
当該科目の目的	講義目的	助産所（院内助産所）、地域社会における母子保健活動の連携、周産期母子コーディネーターに関して、選定した実践拠点において、助産学にかかわる自己課題に対する統合実習を行い、助産学における理念、技術、患者の熟成を高め、課題を達成する。	
	到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己課題に対応した実習場所を決め、交渉できる。 2. 実習計画を企画し、立案できる。 3. 実習計画に基づき実践し、課題を達成できる。 	
当該科目の内容・計画	<p>実習準備</p> <p>5 月 課題目的に沿った地域実践の実施 地域実践の拠点 院内助産所：助産所とうみ 地域連携：寿助産院（高崎地区の産後母子訪問システムの調整役） 周産期搬送コーディネーター：県立小児医療センター</p> <p>まとめ</p>		
評価方法	レポート (100%)		
参考書 テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究—基礎と応用—，ヌーベルヒロカワ		
授業外学習の内容	今までの知識の統合をしたうえで、積極的かつ主体的に取り組むこと。 【備考】 1週間(5日間)＝45時間		

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産実践開発科学												
科目名	助産学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Midwifery Science										
担当者	大石 時子												
時期・単位	2年次 通年 必修6単位												
当該科目の目的	講義目的	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、母性意識、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献により補足を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。											
	到達目標	1. 実習のフィールドと交渉できる。 2. 研究倫理審査に対応できる。 3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。											
当該科目の内容・計画	<p style="text-align: center;">2年次7月までには研究倫理審査</p> <table border="0"> <tr><td>7月</td><td>研究倫理審査</td></tr> <tr><td>8～9月</td><td>データ収集</td></tr> <tr><td>10月</td><td>中間発表会</td></tr> <tr><td>11月</td><td>データ分析</td></tr> <tr><td>12～1月</td><td>修士論文作成</td></tr> </table>			7月	研究倫理審査	8～9月	データ収集	10月	中間発表会	11月	データ分析	12～1月	修士論文作成
7月	研究倫理審査												
8～9月	データ収集												
10月	中間発表会												
11月	データ分析												
12～1月	修士論文作成												
評価方法	研究成果（100％）												
参考書テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ												
授業外学習の内容	積極的かつ主体的に取り組むこと。 体調管理にも配慮すること。												

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産実践開発科学												
科目名	助産学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Midwifery Science										
担当者	久保田 隆子												
時期・単位	2年次 通年 必修6単位												
当該科目の目的	講義目的	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、母性意識、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献により補足を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。											
	到達目標	1. 実習のフィールドと交渉できる。 2. 研究倫理審査に対応できる。 3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。											
当該科目の内容・計画	<p style="text-align: center;">2年次7月までには研究倫理審査</p> <table border="0"> <tr><td>7月</td><td>研究倫理審査</td></tr> <tr><td>8～9月</td><td>データ収集</td></tr> <tr><td>10月</td><td>中間発表会</td></tr> <tr><td>11月</td><td>データ分析</td></tr> <tr><td>12～1月</td><td>修士論文作成</td></tr> </table>			7月	研究倫理審査	8～9月	データ収集	10月	中間発表会	11月	データ分析	12～1月	修士論文作成
7月	研究倫理審査												
8～9月	データ収集												
10月	中間発表会												
11月	データ分析												
12～1月	修士論文作成												
評価方法	研究成果（100％）												
参考書テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ												
授業外学習の内容	自分が研究目的とするテーマに近い文献を集めること。 文献リストを作成すること。 研究に必要な書籍を調べること。												

科目区分	専門科目 助産学分野 助産実践開発科学領域専門科目 助産実践開発科学												
科目名	助産学特別研究	英文名	Seminar for Master's thesis on Midwifery Science										
担当者	今関 節子												
時期・単位	2年次 通年 必修6単位												
当該科目の目的	講義目的	助産学実践Ⅰ、Ⅱにより研究計画を立案し、助産学実践Ⅲにおいて実際にフィールドにおいて試みた結果に基づき、本格的に、助産技術や母子保健を向上させるための助産サービス提供システムや、女性のライフサイクル、母性意識、周産期の助産ケア、コーディネイト等の課題に対して、その科学的探求に向けた知見を得るため、内外の文献により補足を加え、倫理的条件も踏まえながら研究を遂行し、論文として公表する。											
	到達目標	1. 実習のフィールドと交渉できる。 2. 研究倫理審査に対応できる。 3. 研究計画書に基づいた研究を実施し、公開されている研究誌等に公表できる。											
当該科目の内容・計画	<p style="text-align: center;">2年次7月までには研究倫理審査</p> <table border="0"> <tr><td>7月</td><td>研究倫理審査</td></tr> <tr><td>8～9月</td><td>データ収集</td></tr> <tr><td>10月</td><td>中間発表会</td></tr> <tr><td>11月</td><td>データ分析</td></tr> <tr><td>12～1月</td><td>修士論文作成</td></tr> </table>			7月	研究倫理審査	8～9月	データ収集	10月	中間発表会	11月	データ分析	12～1月	修士論文作成
7月	研究倫理審査												
8～9月	データ収集												
10月	中間発表会												
11月	データ分析												
12～1月	修士論文作成												
評価方法	研究成果（100％）												
参考書テキスト等	資料を配布する、並びに検索した文献を活用する テキスト：①小笠原知枝・他編：これからの看護研究－基礎と応用－，ヌーベルヒロカワ												
授業外学習の内容	1. 焦点化した課題に関わる文献を収集し、抄読し、クリティークして、学習した方式に基づいて文献集として整理していく、研究計画の構築、分析、論文作成に備えて活用する。 2. 院全体の研究実施・発表・論文提出の予定に基づいて、各自の研究進捗状況計画を立案して、自律的に進めていけるよう整える。												